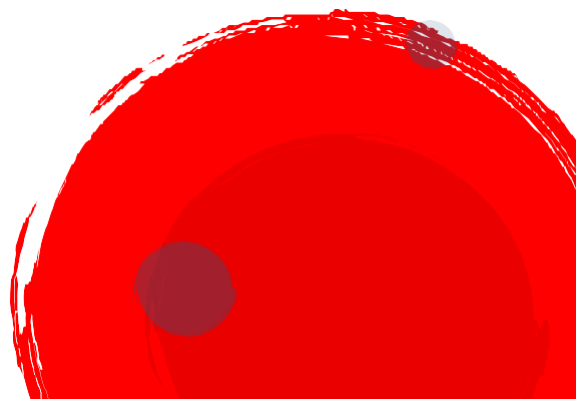




KONAN GAKUEN

令和7(2025)年度 事業報告書

学校法人
 甲南学園 甲南大学
甲南高等学校・中学校



CONTENTS

はじめに	1
<u>I.令和7(2025)年度の学園総括</u>	
1. KONAN GAKUEN 2025 HIGHLIGHT	2
2. 学園の経営状況	4
<u>II.法人の概要</u>	
1. 甲南学園のあゆみ	6
2. 役員・評議員・会計監査人等	7
3. 設置学校・教育研究組織	8
4. 事務組織	9
5. 教職員数	10
6. 土地と建物	10
<u>III.事業の概要</u>	
1. 甲南学園中期計画(2020-2025)の推進	11
2. 大学	13
3. 高等学校・中学校	15
4. 法人	17
<u>IV.財務の概要</u>	
1. 学校法人会計基準について	18
2. 本学園における財務の基本的な考え方	18
3. 決算の概要	19
4. 資産運用の状況	24
5. 財務比率の推移	25
<u>V.内部統制の概要</u>	
1. 内部統制システムの運用および更なる強化	27
<u>VI.基本データ</u>	
1. 学生数・生徒数	28
2. 入学試験状況	28
3. 留学生数	29
4. 学位授与数	29
5. 卒業生累計数	29
6. 卒業生の就職状況	29



学校法人甲南学園
理事長 **長坂 悦敬**

甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する甲南学園の歴史は、大正 8(1919)年の旧制甲南中学校の開校にさかのぼります。

甲南を支える大きな精神的支柱である創立者の平生飢三郎は、

本校ハ学校教育ノ現状ニ満足セザル

有志ノ者共ガ集リマシテ

知育偏重ノ弊ヲ避ケ

「人格ノ修養」、「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、

「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベキ

知的教育ヲ施サン」

トスル主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

甲南高等学校完成式及第一回卒業証書授与式／大正 15(1926)年

と述べています。

本学園は、今後も、この気概と品格ある建学の精神をもとに、

教育・研究の質を高め、本学園の社会的使命を達成することを目指しています。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本学園の令和7(2025)年度(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)の事業概況をご報告申し上げます。

令和7(2025)年度は、甲南新世紀の第1次中期計画である「甲南学園中期計画(2020-2025)」の最終年にあたり、教職員が丸となって同計画の集大成を図るとともに、令和8(2026)年度から始動する第2次中期計画(2026-2030)の策定に取り組む1年となりました。教職員一同の尽力に加え、関係者ならびにステークホルダーの皆様からの多大なるご支援とご協力を賜り、学園全体の活性化が進み、多くの成果を創出することができたことに深く感謝いたします。

大学においては、「KONAN進化型理系構想」の一環として、令和8(2026)年4月に設置する理工学部「環境・エネルギー工学科」「宇宙理学・量子物理工学科」「物質化学科」の改組、および自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻」設置に関する文部科学省への届出が受理されました。また、理系新棟「SCIENCE JUNCTION」の建設工事も着工いたしました。このほか、フロンティアサイエンス学部では、「研究開発リーダー養成プログラム」や低年次における岡本キャンパスでの学びの機会拡充に向かう改革を進め、知能情報学部では、「甲南デジタルツイン研究所」を通じたAI・デジタルツイン研究を展開するなど、進化型理系構想を着実に推し進めております。教育改革とともに、令和7(2025)年度に導入した「大学院入学免除制度」との相乗効果もあり、大学院への内部進学者も増加いたしました。さらに、本年度実施した令和8(2026)年度入試において、理系3学部の志願者は前年比116%となり、高校生や保護者の皆様にもこれら改革の動きを感じていただいていると考えております。

高等学校・中学校においては、中期行動計画を着実に進めるなか、「メインストリーム・コース」を設置した新コース制が2年目を迎えました。甲南大学との連携をよりいっそう強化するため「高大接続検討チーム」を発足させ、内部進学における連携・進路指導、大学進学後における学生指導・支援等、高大接続に関する課題検討を行いました。

法人・学園全体での大きな取組みとしては、4月からの改正私立学校法施行に合わせて、6月以降、新たな理事会・評議員会・監事体制へ移行したことがあげられます。また、機能別横串戦略に基づく全体最適化を目指し、クロスファンクショナルチームを通じて、多岐にわたる組織横断的活動を積極的に推進してまいりました。

令和8(2026)年度から始動する第2次中期計画(2026-2030)では、“KONAN INFINITY”というスローガンを掲げて、平生フィロソフィのもと、人物教育と個性尊重を基盤とし「学生・生徒の可能性を無限に広げる学園」となることを目指します。最も重要なテーマである教育の質向上におきましては、① 個性を力にする深化・進化型「彩り教育」、② 人間力を育む「KONAN正課外教育」、③ グローカル人材を育成する「融合型グローバル教育」の実現に向けて邁進いたします。

「人物教育のクオリティ・リーダー」として社会から高く評価され、さらに輝き続ける学園となるため、これまでと変わらず、これからも力強く歩み続けてまいります。

今後とも、格別のご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

I. 令和7(2025)年度の学園総括

1. KONAN GAKUEN 2025 HIGHLIGHT

(1) KONAN 進化型理系の推進

甲南大学の特色ある研究力を活かし、理学と工学の学びにより成長分野を担う理工系人材の育成を強化するため、理系3学部および大学院研究科を進化させる「KONAN進化型理系構想」を推進。令和7(2025)年度は、新たに「環境・エネルギー工学科」の設置、物理学科の「宇宙物理学・量子物理工学科」への改組、機能分子化学科の「物質化学科」への改組に関する文部科学省届出手続きが完了し、令和8(2026)年度の理工学部の再編(新4学科体制)に向けて、教育課程の編成や教員組織の整備等の具体的な開設準備を着実に進めるとともに、受験生に向けた広報活動や学生募集を本格化させました。

■ 理工学部 4学科体制への進化、自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻の新設



■ 新理系棟パースイメージ

この進化型理系構想を支えるキャンパス整備の一環として、岡本キャンパス西校舎に令和9(2027)年4月完成を目指す新理系棟の建設工事を令和7(2025)年9月から開始しました。

新理系棟は、地上5階、延べ床面積3,834平方メートルの規模で、理工学部環境・エネルギー工学科の研究フロアと理系を中心に全ての学生が利用できる「SCIENCE JUNCTION」を設け、所属学部を超えた融合や地域社会との共創を推進する環境を整備します。



また、「甲南学園中期計画(2020-2025)」および「KONAN U.VISION 2025」のもとで、大学院の充実化に向けた教育・研究、環境面整備や出口力強化などの取組みを行い、理系の大学院進学者は増加傾向にあります。令和7(2025)年度は、「大学院入学金免除制度」の開始、「甲南学園給付制奨学金(大学院生枠)の拡大」など大学院進学に関する経済的サポートの強化を図り、理系大学院への入学者は82名(前年比122%)と増加する結果になりました。

■ 大学院入学金免除制度

KONAN INFINITY KONAN UNIVERSITY

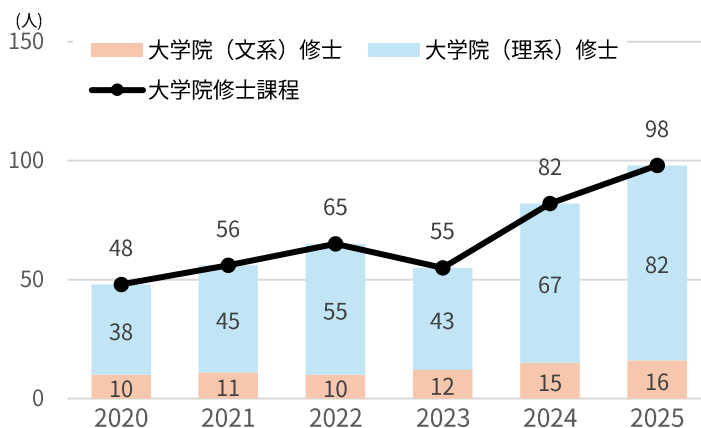
甲南大学の在学学生、卒業生、リカレント教育プログラムを修了された方は、(社会人の学び直しプログラム)

大学院入学金 **30万円** → **免除**

甲南大学大学院で高度専門人材へ

大学院入学金免除制度
2025年度よりSTART

■ 修士課程 入学者数推移(2020年度～2025年度)



(2) 甲南学園第2次中期計画(2026-2030)を策定

「甲南学園中期計画(2020-2025)」(以下、「第1次中期計画」)が、令和7(2025)年度末に期間終了を迎えるにあたって、令和8(2026)年度を開始年度とする「甲南学園第2次中期計画(2026-2030)」(以下、「第2次中期計画」)の策定に取り組み、令和8(2026)年3月27日に開催された理事会において、第2次中期計画を決定しました。

第2次中期計画の策定にあたっては、まず第1次中期計画の成果の振り返りと課題抽出を実施、その後第2次中期計画策定タスクフォースを設置し、学生の意見も聞きながら学園教職員全員参加で検討を進めてまいりました。

第2次中期計画では、学園全体を包含するビジョン「KONAN VISION 2030」のスローガンとして学内から支持された「KONAN INFINITY」を掲げます。そして、人物教育と個性尊重を基盤とし、人物教育のクオリティリーダーとして「学生・生徒の可能性を無限に広げる学園」になることを目指します。具体的には、特色ある専門教育・共通教育・正課外教育、中高大一貫教育、エッジの効いた研究、地域・卒業生とのつながり強化を進め、平生フィロソフィのもとで人格をつくり、有言実行できる人材、不確実性の時代において社会の問題解決をはかり、他者と自身の Well-being を実現するリーダーとなるグローバル人材の育成、輩出を実現していきます。

KONAN VISION 2030
人物教育、個性尊重、学生・生徒の可能性を無限に広げる

KONAN INFINITY
平生フィロソフィのもとで人格をつくり、有言実行できる人材、不確実性の時代において社会の問題解決をはかり、他者と自身の Well-being を実現するリーダーとなるグローバル人材を輩出する。そのために特色ある専門教育・共通教育・正課外教育、中高大一貫教育、エッジの効いた研究、地域・卒業生とのつながり強化を進め、卒業生を輩出する。

VISION 1 「人物教育優先」の深化と進化を実現する
大学・中高大一貫教育の充実と「人物教育」の推進、国際・地域・卒業生とのつながり強化を進め、卒業生を輩出する。

VISION 2 地域社会・卒業生に「あひだく、おもしろく、つながる」を実現する
アカデミックを軸とした人材育成、地域・卒業生とのつながり強化を進め、卒業生を輩出する。

VISION 3 グローバル人材の育成
グローバル人材の育成と国際化を進め、卒業生を輩出する。

KONAN VISION 2030
甲南学園第2次中期計画(2026-2030)

MISSION 人物の成長と個性の尊重を基盤とし、個性を尊重して人々の元来の特性を存続する人物教育の推進

VISION 人物教育、個性尊重、学生・生徒の可能性を無限に広げる

STRATEGY 戦略的行動計画(2026-2030)

MID-TERM PLAN 中期計画(2026-2030)

ACTION 事業計画

PHILOSOPHY 平生フィロソフィ

甲南学園第2次中期計画(2026-2030)特設サイト
<https://www.konan-u.ac.jp/konan-vision2030/>

■ 学園創立110周年記念事業の策定

第2次中期計画の4年目にあたる令和11(2029)年4月21日に学園創立110周年を迎えることを踏まえて、「甲南学園創立110周年記念事業」を第2次中期計画のアクションプランの重要な柱のひとつとして策定いたしました。次の100年に向けて、しっかりと10年ごとの節目をつくり、本学園がさらに発展していくための事業を推進いたします。

学生・生徒の可能性を無限に広げられる学園になるために、さらなる進化一貫甲南学園をご支援ください

1. グローバル人材・国際人材育成の進化
国際化を進め、グローバル人材・国際人材の育成を進め、卒業生を輩出する。

2. 学生・生徒にとってより魅力あるキャンパスの実現
キャンパスの整備を進め、学生・生徒の生活環境を向上させる。

3. 地域社会・卒業生とつながる学園の推進
地域社会とのつながり強化を進め、卒業生を輩出する。

4. 「Tower」構想の実現
「Tower」構想の実現を進め、学園の発展を促進する。

5. 「甲南大学センター」設置
「甲南大学センター」の設置を進め、学園の発展を促進する。

110th KONAN

©わたせせいぞろ / APPLE FARM INC.

甲南学園創立110周年記念サイト
<https://www.konan-u.ac.jp/110th/>

I. 令和7(2025)年度の学園総括

2. 学園の経営状況

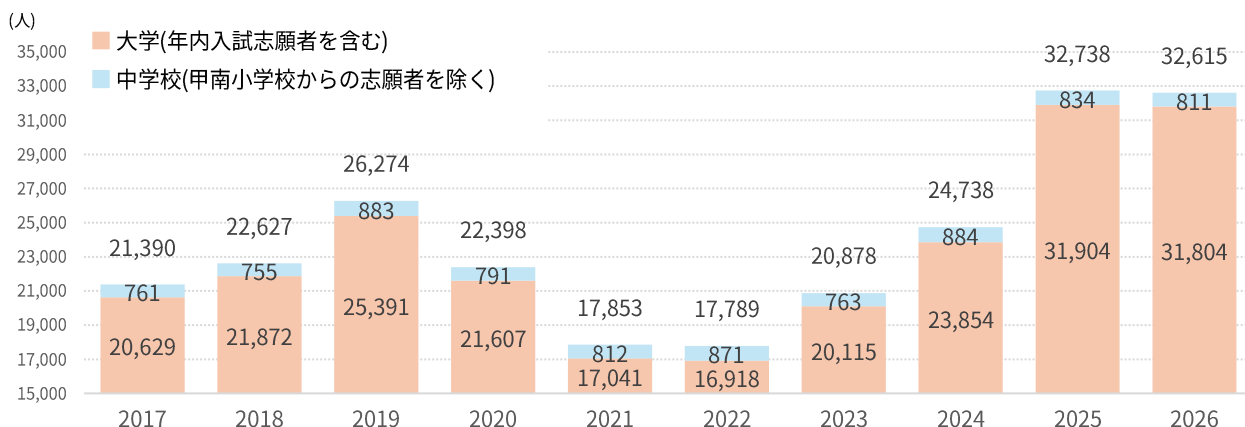
(1) 大学および高等学校・中学校の入学志願者数

令和7(2025)年度に「入学定員未充足」となった私立大学は53.2%(594校中316校)となり、前年度より6.0ポイント改善しました。高等教育機関の主たる進学者である18歳人口の減少が現在踊り場にあり、前年度比で約3万人増加したことが主な要因と考えられます。2027年度からは再び本格的な減少に転じ、定員割れが加速される懸念があります。また、全国の私立高等学校においては、15歳人口が前年度より1.3%減少した影響を受け、志願者数、受験者数がそれぞれ減少となり、定員割れの高校は71.2%(1,289校中918校)となりました。急速な少子化が進行する中において、学生・生徒募集にかかる取組みにはさらなる工夫と努力が必要とされています。

甲南大学では、受験生目線で志願しやすい入試制度改革とターゲットを絞った学生募集広報活動を継続して展開しました。その結果、令和8(2026)年度の一般選抜入学試験(共通テスト利用型含む)の志願者数は延べ24,944名(前年度比98.3%)、年内入試の志願者数は延べ6,860名(前年度比105.2%)となりました。全体として微減する結果となりましたが、過年度に達成した高い志願者数水準を維持しています。

甲南高等学校・中学校においては、中学校入試の延べ志願者数(甲南小学校からの志願者21名を除く)は811名(前年度比97.2%)と微減する結果となりました。しかしながら、兵庫県下において共学化や入試制度の変更などにより志願者動向が大きく変動する中においても、第一志望層の動向を示すI期午前入試の志願者が前年の148名から163名へと増加するなど、底堅い支持と過年度と同規模の志願を維持しています。なお、専願制として実施している高校入試については、約25名の募集に対し31名の志願者を集めました。

■ 延べ志願者数推移(直近10年)



(2) 私学助成の取得状況

文部科学省私学助成は、急速な少子化の進行を踏まえて、教育条件の維持向上等を図るとともに、改革に取り組む私立大学等を重点的に支援することを目的としたメリハリある配分が実行されている状況にあり、今後さらに私学助成獲得に関する競争要因が高まっていくことが留意されています。

甲南大学では、自らの特色・強みや役割の明確化・伸長に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学等を重点的に支援する文部科学省 令和7(2025)年度私立大学等改革総合支援事業において、4項目中2項目(タイプ2「特色ある高度な研究の展開」およびタイプ3「地域社会の発展への貢献」)が選定されました。また、令和7(2025)年度の私立大学等経常費補助金額は、約9.4億円(586校中67位)であり、うち教育改革や研究高度化に資する取組みに対して上乗せされる特別補助金額は、約1.2億円(586校中37位)となっており、相対的に高い水準を維持しています。

(3) 科学研究費の採択状況および外部資金の取得状況

日本学術振興会より有望な研究計画に付与される令和6(2024)年度科学研究費における甲南大学の採択状況は、82件・約1.8億円(継続を含む研究代表者分のみ)であり、継続して高い水準を維持しています。

なお、研究活動の実用化指標となる産業界等からの奨学寄附金等の外部資金による研究助成額も過年度と比較して増加傾向となっています。

(4) 大学卒業生の就職状況、高校卒業生の大学進学実績

令和7(2025)年度の大学卒業生の就職率(内定者数/就職希望者数)は、99.0%(前年度比0.1%増)であり、過年度から継続して高い水準を維持しています。実就職率(就職者数/(卒業生数－大学院進学者数))は、94.2%(前年度比1.6%増)となりました。

高等学校の令和7(2025)年度卒業生において、甲南大学への進学者数は、78名でした。その他、国公立大学に23名、本学以外の私立大学に59名(うち慶應義塾・上智大6名、医歯薬獣医系学科に8名)、海外の大学に3名が進学しています。

(5) 学園中期計画を推進する予算編成の実施

教育の質向上等の将来投資につなげるために経常収支差額の均衡を目指し、事業活動支出の割合は同収入の99.0%以下を堅守することを念頭に、学園中期計画を踏まえ各部局が作成した事業計画書、予算申請書に基づき予算査定を行い、学園中期計画と事業計画、予算の連動、PDCAサイクルを意識した予算編成を行いました。

[主なプロジェクトに係る支出]

プロジェクト	支出	プロジェクト	支出
KONANプレミア・プロジェクト	119百万円	つながる学園、社会連携施策	28百万円
甲南新世紀戦略研究プロジェクト	111百万円	KONAN-DXプロジェクト、情報化施策	70百万円
KONANクオリティプラスプロジェクト	30百万円		

(6) 施設・設備関係への資金配分

人物教育を推進する場としてのキャンパスは本学に欠かせない重要資産であり、快適に教育活動・キャンパスライフが送れるように配慮し、全学的な視座による施設・情報化のグランドデザインを踏まえ、既存施設・構築物の安全性を点検のうえ、適切な範囲での対応を継続する資金配分を実施しました。

施設・設備関係への資金配分	甲南大学	甲南高等学校・中学校	その他
施設関係支出	2,496百万円	93百万円	1,351百万円
設備関係支出	468百万円	7百万円	

■ 概要(主な施設・設備整備)

・15号館新築工事	・1号館・5号館・西宮キャンパス屋上防水工事
・学生寮・ゲストハウス用地取得	・12号館・13号館・14号館・PI F-1号館空調更新工事
・本校地特高受変電所移設新設工事	・中学校・高等学校 体育館アリーナ空調設置
・図書館(B1・1-2階)照明LED化工事	・西岡本テニスコート 冷水器・スポットクーラー設置
・西宮キャンパス照明LED化工事	・iCommons・10号館1階多目的トイレにおむつ台設置
・西宮キャンパス・PIキャンパス中央監視ローカル設備更新工事	・甲友会館常設プロジェクトタ設置
・平生セミナーハウス・中高エレベーター更新工事	・PI F-1号館entranceリニューアル・7階売店をFamilyMart仕様に改装

※PI…ポートアイランド

(7) 財政状況

フローの面では、KONANプレミア・プロジェクトなどの発展策を実施しつつ、最も重視する経常収支において直近5年間継続して黒字を確保し、キャンパスの保全整備やグランドデザイン実現に向けた再投資資金の積立を計画どおり実現しています。また、ストックの面においても、経常支出に対する運用資産の余力は十分にあり、外部機関からの借入を行わず負債比率を低い水準に保っています。このように良好な経営基盤を維持できており、「日本私立学校振興・共済事業団」による定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分においても「正常状態」に位置づけられています。

今後、物価高騰などによる支出の増加も見込まれることから、第2次中期計画に掲げる「教育の質向上」を実現するためにも、学園運営を支える財政基盤のさらなる健全化を推進していく必要があります。

II. 法人の概要

1. 甲南学園のあゆみ



平生鈺三郎は、慶応2(1866)年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建する等実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立等社会事業にも深く関わり、政治においては、廣田弘毅内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。

また、甲南幼稚園、甲南小学校、甲南中学校、甲南高等学校を創立したほか、私費による育英事業「拾芳会」を立ち上げる等、教育にも熱意を注ぎ続けました。

建学の精神

創業者 **平生 鈺三郎** 「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の特性を伸張させる」

大正7(1918)年	12月	財団法人甲南学園 私立甲南中学校設立認可
大正8(1919)年	4月	私立甲南中学校開校
大正12(1923)年	4月	七年制甲南高等学校開校
昭和23(1948)年	4月	新制甲南高等学校開校
昭和26(1951)年	4月	甲南大学開学、文理学部設置
昭和27(1952)年	4月	経済学部増設
昭和32(1957)年	4月	文理学部を文学部と理学部に分離
昭和35(1960)年	4月	法学部・経営学部増設
昭和38(1963)年	4月	高等学校・中学校が神戸市東灘区岡本から芦屋市に移転
昭和39(1964)年	4月	大学院人文科学研究科、自然科学研究科設置
昭和40(1965)年	4月	大学院社会科学研究科増設
平成3(1991)年	4月	トゥレーヌ甲南学園(後にフランス甲南学園トゥレーヌに校名変更)高等部・中等部を開校
平成13(2001)年	4月	理学部を理工学部に変更
平成14(2002)年	4月	経済学部・経営学部EBA総合コースを開設(平成25(2013)年4月廃止)
平成15(2003)年	11月	先端生命工学研究所(FIBER)設置
平成16(2004)年	4月	大学院法学研究科(法科大学院)増設(令和5(2023)年10月廃止) フロンティア研究推進機構を設置
平成18(2006)年	4月	大学院ビジネス研究科(会計大学院)増設 (平成25(2013)年4月会計専門職専攻として社会科学研究科のもとへ移設、 平成28(2016)年3月廃止)
平成20(2008)年	4月	知能情報学部増設
平成21(2009)年	4月	マネジメント創造学部増設(西宮キャンパス開設) 先端生命工学研究所移設・フロンティアサイエンス学部・ 同研究科増設(ポートアイランドキャンパス開設)
平成25(2013)年	3月	フランス甲南学園トゥレーヌ閉校
平成28(2016)年	4月	白川台キャンパス(愛称：コスモスキャンパス)を開設
平成29(2017)年	9月	KONAN INFINITY COMMONS(愛称：iCommons)が竣工
平成31(2019)年	4月	学園創立100周年記念式典を挙げる
令和2(2020)年	4月	全学教育推進機構を設置
令和4(2022)年	4月	社会連携機構を設置
令和5(2023)年	4月	学生支援機構を設置
令和6(2024)年	4月	グローバル教養学環(STAGE)を設置

2. 役員・評議員・会計監査人等 (令和8(2026)年3月31日現在)

■ 理事 (定員10人以上20人以内)

長坂 悦敬	常勤	理事長
片山 勉	常勤	副理事長 代表業務執行理事／常任理事
平野 欽一郎	常勤	専務理事 業務執行理事／常任理事
中井 伊都子	常勤	甲南大学長 業務執行理事／常任理事
山内 守明	常勤	甲南高等学校・中学校長 業務執行理事／常任理事
高 龍秀	常勤	甲南大学副学長 常任理事
村嶋 貴之	常勤	甲南大学副学長 常任理事
市川 典男	非常勤	
稲垣 嗣夫	非常勤	常任理事
大西 英之	常勤	つながる学園推進室長
具 英成	非常勤	
小西 新右衛門	非常勤	
杉山 健博	非常勤	
立野 純三	非常勤	
村津 敬介	非常勤	常任理事
山田 純嗣	非常勤	
米田 壯	非常勤	常任理事

■ 評議員 (定員25人以上30人以内)

渡邊 順司 (学内)	道満 善弘
梅津 郁朗 (学内)	松井 佐一郎
金丸 義衡 (学内)	丸谷 昭博
藤田 順也 (学内)	江口 毅
中野 修一 (学内)	丸山 泰
鶴木 千加子 (学内)	和田 直哉
足立 恵英 (学内)	安西 敏三
谷向 豊 (学内)	上島 一泰
石野 牧生 (学内)	佐々木 良太郎
衣斐 茂樹	佐藤 治正
奥田 兼三	西 周一郎
小倉 宏之	平生 誠三
佐藤 茂	細谷 俊雄
白石 朋康	山下 英久
杉山 洋一	

■ 監事 (定員2人以上3人以内)

植村 武雄	非常勤
渡辺 顥修	非常勤
池田 芳則	常勤

■ 会計監査人 (定員1人)

有限責任 あずさ監査法人	東京都新宿区津久戸町1番2号
--------------	----------------

■ 役員賠償責任保険の加入

私立学校法に従い、理事会決議により、令和5(2023)年6月1日から会社役員賠償責任保険に加入しています。

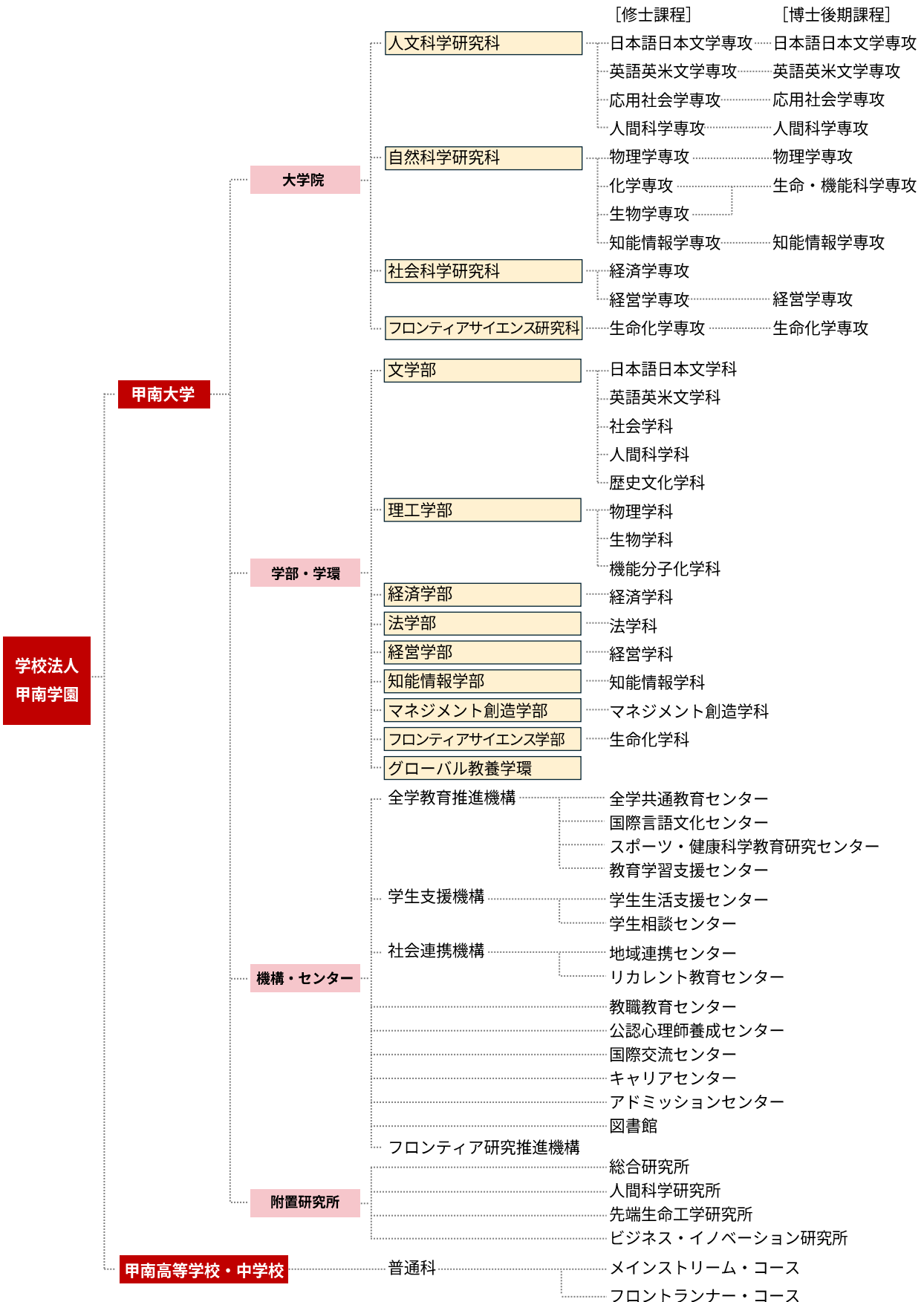
この保険は、学校法人の役員(被保険者)が役員として行った業務に起因して損害賠償請求を受けた場合に、被保険者が法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害に対して保険金を受け取ることができるもので、被保険者の範囲は、理事、監事、評議員になっています。

<保険内容>

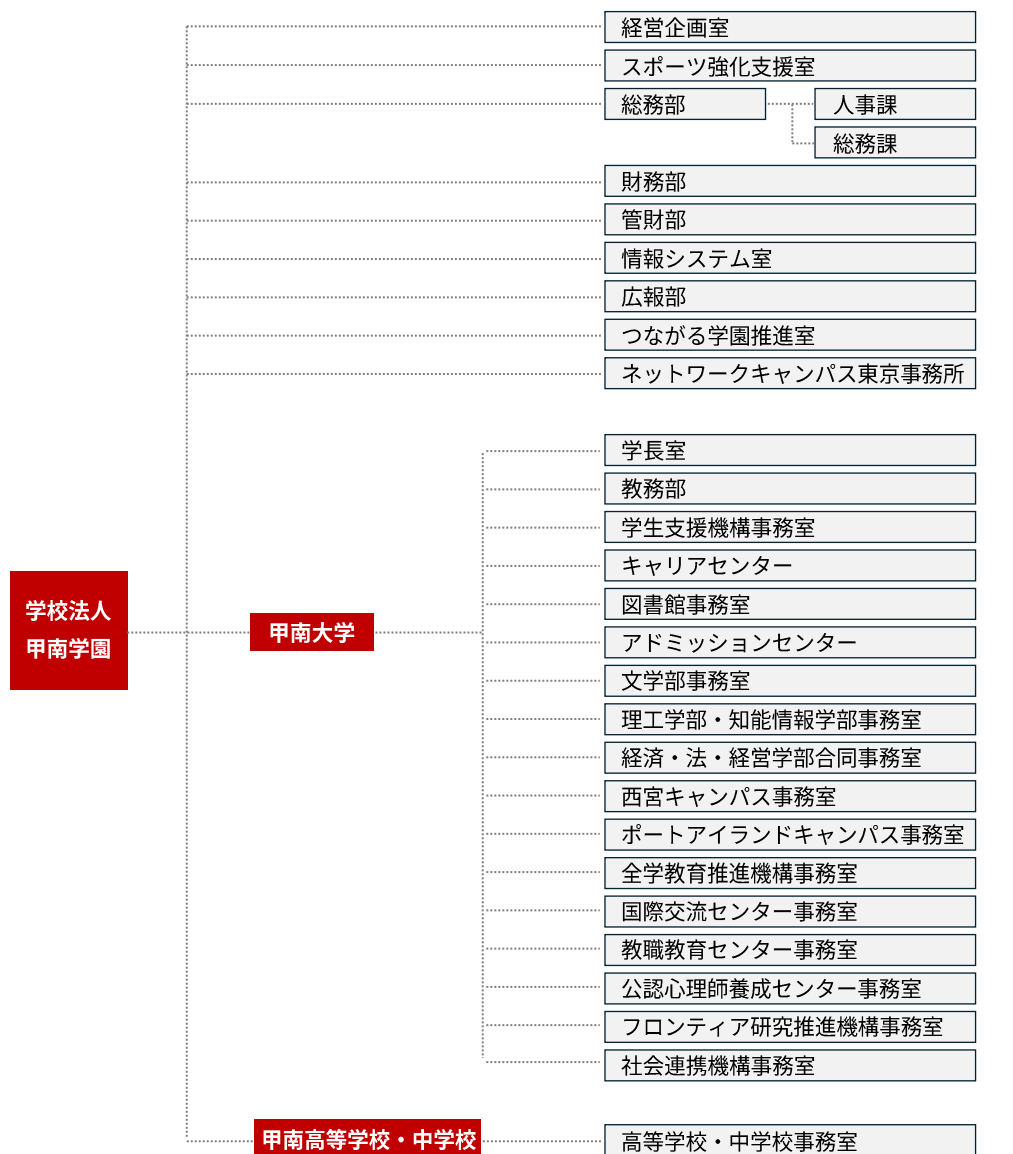
- 被保険者
 - ・記名法人 学校法人甲南学園
 - ・個人被保険者 理事、監事等
- 補償内容
 - ・記名法人に関する補償
法人内調査、第三者委員会設置・活動費用等
 - ・個人被保険者に関する補償
法律上の損害賠償金、争訟費用等
- 支払い対象とならない主な場合
法律違反に起因する対象事由等
- 保険期間中総支払限度額
5億円

II.法人の概要

3. 設置学校・教育研究組織 (令和8(2026)年3月31日現在)



4. 事務組織 (令和8(2026)年3月31日現在)



※上記のほか、理事長直属の監査部を置く

■ 子法人

名称	所在地	ホームページ
株式会社甲南学園サービスセンター	兵庫県神戸市東灘区住吉本町2丁目29番15号	https://www.konan-isc.co.jp/

II.法人の概要

5. 教職員数(令和7(2025)年5月1日現在)

教職員区分	本務	兼務	総計
大学教員	265	586	851
高校・中学校教員	59	39	98
職員	217	28	245
総計	541	653	1,194

※ 本務教員：専任教員
 兼務教員：非常勤講師
 本務職員：専任職員・嘱託職員
 兼務職員：専任職員・嘱託職員以外

■ 職階別教員数

教職員区分	教授	准教授	講師	助教	特任等	総計
甲南大学	177	41	15	2	30	265

※ 本務教員

6. 土地と建物(令和8(2026)年3月31日現在)

面積等	甲南大学	甲南高等学校・中学校	その他	総計
土地	194,978.81㎡	45,791.00㎡	7,573.44㎡	248,343.25㎡
建物	140,961.45㎡	18,944.16㎡	3,837.73㎡	163,743.34㎡

※ 面積には賃借物件を含む

■ 主なキャンパスや施設

岡本キャンパス
 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1



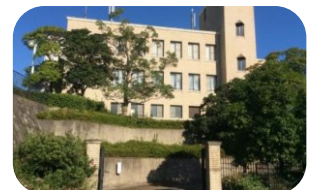
西宮キャンパス
 兵庫県西宮市高松町8-33



ポートアイランドキャンパス
 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20



白川台キャンパス
 兵庫県神戸市須磨区東白川台5-6



六甲アイランド総合体育施設
 兵庫県神戸市東灘区向洋町中8-2



甲南高等学校・中学校
 兵庫県芦屋市山手町31-3



甲南大学平生記念セミナーハウス
 甲南学園平生記念館
 兵庫県神戸市東灘区住吉本町2-29-15

ネットワークキャンパス東京
 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー10F

III.事業の概要

1. 甲南学園中期計画(2020-2025)の推進

本学園は、創立100周年を超えた甲南新世紀の第1次中期計画である「甲南学園中期計画(2020-2025)」を2020年度に始動させ、完成年度を迎える令和7(2025)年度まで推進いたしました。3つの学園スローガン(「人物教育率先」の進化 / 世界に通じる「KONANクオリティ」/ 地域社会と朗らかに「つながる学園」)を掲げ、教職協働など組織横断活動を積極的に展開しながら大学、高等学校・中学校、法人のアクションプランを実行しました。

(1) 中期計画の進捗管理

「進捗管理表」を用いた月次単位でアクションプラン進捗状況の確認や年度ごとの「各部署の取り組み・成果報告」を学園本部会議や理事会等の諸会議において実施し、学園全体で中期計画の進捗を確認する活動を継続しました。また、学園中期計画におけるKGI、KPIをまとめたダッシュボードによる定量的な分析、診断を毎年度継続的に実施しながら、大学や高等学校・中学校のビジョンも含めた学園全体の中期計画を推進しました。

(2) 機能別横串戦略・施策の推進

複数の組織に関係する重要な機能に対して、改善すべき課題を洗い出し、全体最適化や組織横断活動を推進するため、機能別横串戦略・施策の策定および戦略に基づく取り組みの検討・実施を継続しました。さらに、第2次中期計画の策定の一環として、令和7(2025)年12月には、「甲南学園機能別横串戦略レビュー」を発行し、学園本部会議や理事会等の諸会議において第1次中期計画期間における活動報告を行いました。



[令和7(2025)年度の主な取り組み]

① 情報化戦略

独立していた「事務系システム」と「教育系システム」の仮想化基盤を最新の技術を用いて物理的に統合するなどDX推進および教育・研究環境の充実を図るため、全学的な情報システム基盤の更改を実施しました。また、教育・研究・業務・経営の4つの領域からなる「KONAN-DX」のさらなる推進に向けて、第2次中期計画における取り組みテーマの設定を行い、特に業務におけるDX推進の観点から令和7(2025)年10月に「生成AI活用による業務生産性向上タスクフォース」を設置しました。

② 広報戦略

広報戦略会議のもとに設置されている「広報作業部会」を月次で開催し、「進化型理系構想」や全学の広報トピックスを集約し、学内共有を図るとともに広報活動の全体最適化を推進しました。新たな取り組みとして、「課外活動広報プロジェクト」(令和7(2025)年5月～)、「なんぼーくんブランディング」(令和7(2025)年7月～)、「平生夙三郎パラパラ漫画制作」(令和7(2025)年9月～)などが始動しました。

③ キャンパス・グランドデザイン

岡本キャンパス西校舎 理系新棟の令和9(2027)年4月の利用開始を目指して、令和7(2025)年9月に建設工事を開始しました。また、岡本キャンパスの高圧機器および高圧幹線ケーブルの老朽化に伴い、キャンパスの中心に位置する特高受変電所の移設および建屋新築工事を令和7(2025)年7月に開始しました。

④ 財政戦略

学園創立110周年記念事業企画や物価高騰によるキャンパス・グランドデザイン実現への影響を踏まえたシミュレーションを実施し、第2次中期計画の検討に活用しました。

III.事業の概要

1. 甲南学園中期計画(2020-2025)の推進

⑤ 人事戦略

政策人材育成と働き方の制度関連の両面で戦略策定および施策の具現化を進めました。働き方の制度関連では、職員の「完全週休2日制」および「時間単位の年次休暇制度」の導入を行いました。

⑥ グローバル戦略

「正規留学生募集活動作業部会」のもとで、関西地区および首都圏での広報活動を展開し、外国人留学生(正規留学生)入試志願者の増加(前年度比約1.5倍の218名)につなげました。職員のグローバル力向上を目指し、新たな職員研修として、短期留学プログラム(エリアスタディーズ)の企画・運営に職員が関わる研修を開始しました。また、学生寮・ゲストハウスに関する検討を進めました。

⑦ 社会連携推進施策

地域や卒業生との連携や協力に関する複数部署の情報共有を行いながら、組織横断活動などによる施策を推進。卒業生から本学園への協力状況の可視化したチラシの発行や訪問予定の卒業生に関する情報掲示を開始(令和7(2025)年10月～)。令和7(2025)年8月には増設した「卒業生の活躍を紹介するパネル」展示などの取組みを行いました。

⑧ リスク・ヘッジ戦略

令和8(2026)年1月にリスク・ヘッジ戦略策定タスクフォースを立ち上げ、攻め(価値提供)と守り(リスク事象の予防等)の両面を俯瞰した価値創造を行い、各リスク事象にフィードフォワードに対応する戦略の検討を行いました。

(3) クロスファンクショナルチーム(KONAN-CFT)による活動推進

学園中期計画に関する全学的テーマや課題に対して、組織横断的にメンバーを選出してチームを編成するクロスファンクショナルチーム(KONAN-CFT)を立ち上げ、プロジェクトやタスクフォース等の活動を推進しています。

[令和7(2025)年度の取組み一例]

① 「なんぼーくん」ブランディング

甲南大学公式キャラクター「なんぼーくん」は、平成26(2014)年に摂津祭(大学祭)で学生デザインにより誕生しました。学生・教職員において一定の認知や親しみが醸成されている状況を踏まえ、さらなる愛着の醸成や学外の認知を広げる契機とするため、キャラクター・ブランディングのためのワーキングチームを令和7(2025)年7月に設置。同チームの提案により、令和8(2026)年1月に1号館3階の学生ラウンジを「なんぼーくんLOUNGE」に改修し、同月オープニングイベントも開催しました。

■ なんぼーくんLOUNGE



② キャンパス魅力化イベント「定期試験応援企画」の実施

在学生が「来たくなる」「過ごしたくなる」キャンパスとなり、在学生の豊かなキャンパスライフの充実につなげることを目的として、キャンパスのさらなる魅力化をはかるイベントの企画・実施を開始しました。

第1弾として、令和8(2026)年1月下旬に後期定期試験に向けて頑張る学生達を応援するため、「なんぼーくん学生応援企画」として、ドリンクとお菓子の無料配布イベントを10号館1階「iEntrance」で実施しました。

■ 定期試験応援企画の様子



③ 学校職員体験(インターンシップ)プログラムの実施

入職5年目研修での提案を起点に、職員3名が主体となり「学校職員の学内インターンシップ」を企画・実施。学生に学校職員の仕事を深く理解してもらうため、実際の業務を題材にしたグループワークや若手職員との座談会を実施しました。昨年度の甲南大学生を対象にしたプレ開催で得た知見をもとに、他大学の学生にも対象を広げるとともに、プログラムを改善し、今後も学園として毎年実施できる体制を構築しました。

■ プログラム実施の様子



2. 大学

学園中期計画のもとで令和3(2021)年度に策定した「KONAN U.VISION 2025」達成のための6つの教学新機軸に沿った取組みを実施しました。また、大学全体および各学部等のアクションプラン推進にあたって、令和3(2021)年度から展開する「第2次KONANプレミア・プロジェクト」を継続し、64のプロジェクトを編成し、実施しました。

教育研究上の目的、人材養成の目的、ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)およびアドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)を学部・学科ならびに研究科・専攻ごとに大学ウェブサイトで公表しています。<https://www.konan-u.ac.jp/>

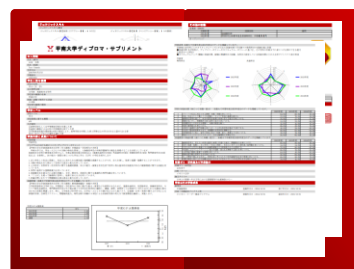
[令和7(2025)年度における主な取組み]

(1) 教学新機軸Ⅰ | 質の高い教育基盤の確立

① 「人物教育ディプロマ・サプリメント」の企画・開発

学位や成績だけでは、表しきれない人物教育の多彩な学びや活動による成果を可視化し、大学が公式な証明書として発行する「人物教育ディプロマ・サプリメント」を導入。令和7(2025)年度卒業生を対象に発行・配付を実施しました。

■ 人物教育 ディプロマ・サプリメント



② 「アセスメントプラン」の策定

中央教育審議会「知の総和」答申および第4期認証評価の要件を踏まえた三つのポリシーの点検実施・教育の質向上の仕組み構築を行うタスクフォースを設置し、内部質保証システムの機能強化策を策定。この一環として、学生の学修成果の評価について、その目的、学位プログラム共通の考え方や尺度、達成すべき質的水準および具体的実施方法などについて定めた学内の方針であるアセスメントプランの最終案を作成しました。

(2) 教学新機軸Ⅱ | 甲南教育プログラムの発展

① 「日本語教員養成課程」の登録日本語教員養成機関および登録実践研修機関として登録

本学の日本語教員養成課程が、国内の日本語学校などの教員に必須となる令和6(2024)年4月に開始された国家資格「登録日本語教員」の養成を担う「登録日本語教員養成機関」および「登録実践研修機関」として、令和7(2025)年5月に国から登録されました。これにより、本課程を修了した学生は、国家試験の「基礎試験」と「実践研修」が免除され、「応用試験」の合格のみで同資格の取得を目指すことができます。

② 「KONAN彩り教育」の展開

各学部等で実施する特色ある教育プログラム、全学生対象の副専攻や教職課程、公認心理師養成課程等のダブルメジャー・サブメジャーを展開しました。

[PICK UP]

経済学部	経営者として活躍される卒業生や地元神戸の企業から与えられた課題に取り組む「プロジェクトゼミ」において、株式会社フェリシモと連携し、神戸ポートタワーをテーマにしたプロジェクト学習に取り組みました。
法学部	少人数で基礎力を鍛える「アドバンスト・ゼミ」、神戸市から行政実務を学ぶ「自治体のしくみと仕事」、「公務員対策講座」の受講料補助など公務員を目指す学生を力強くサポートする「公共人材養成プロジェクト」を実施しました。
経営学部	ビジネスリーダー養成を目指す「ビジネス・リーダー養成プログラム」において、ビジネス・プロフェッションコース16期生が2ヶ月間の企業インターンシップを実施し、成果報告を行いました。
マネジメント創造学部	企業との連携プロジェクトを実施。阪急阪神不動産、阪急西宮ガーデンズと連携し、「ジオエント西宮北口」の一室をプロデュースし、オープンハウスを開催するプロジェクトを実施しました。
グローバル教養学環	海外大学の学生とオンラインを通じて協働学習(COIL)を実施。2年生は、アメリカ・ハワイ大学との6週間のCOILを実施。1年生は、アメリカ・フォートルイス大学とのCOILを実施しました。
知能情報学部	「スーパーIT人材育成プロジェクト」競技プログラミングにおいて、国際プログラミングコンテストに10チーム30名が参加。関西私学から唯一国内予選を突破し、2年連続アジア予選に参加しました。
フロンティアサイエンス学部	ポートアイランドキャンパスのエントランス空間を活用するための設備更新を行い、新エントランス空間「Frato」を整備。学生間や教職員との結びつきを強めるための様々な交流・学修・体験プログラムを実施しました。

III.事業の概要

2. 大学

(3) 教学新機軸III | 融合型グローバル教育の浸透と発展

① 海外大学等への派遣

派遣留学生数は、昨年度の241名から277名へと増加し、コロナ禍以降で最多の派遣となりました。中長期留学には70名(前年度69名)が海外渡航しました。派遣先の充実に向けて、マレーシア・サンウェイ大学との協定、オーストラリア・クィーンズランド大学との協定を令和7(2025)年12月に締結、アメリカ・ハワイ大学リーワードコミュニティカレッジとの協定、ニュージーランド・マッセイ大学とLOIを令和8(2026)年1月に締結しました。

■ 留学生との国際交流の様子



② 留学生の受入と国際交流

受入留学生は、短期・長期あわせて111名にのびりました。グローバルゾーンを中心に甲南生と留学生との交流イベントを積極的に開催し、延べ737名以上が参加、活発な交流が行われました。グローバルゾーンの利用者数は、年間14,259名となり、多くの学生に活用されました。

(4) 教学新機軸IV | 地域連携の深化と教育への展開

① 大学都市神戸産官学プラットフォームとの共創

令和7(2025)年12月に第2回「大学都市KOBESDGSマルシェ」を大学都市神戸産官学プラットフォームと共催しました。神戸市内の大学・企業等が実施するSDGsチャレンジが集結し、参加者同士や市民と交流するイベントで、本学から研究室やプロジェクトなど15ブースが出展。約700名の来場者に取組み成果を発信し、交流を行いました。

② KONANスポーツクラブ 体操クラブの「KOBEDIAMOND KATSU」への申請

神戸市の中学生が校区を越えて多様な活動に参加できる地域クラブ活動「KOBEDIAMOND KATSU(コベカツ)」へ参画するため、「KONANスポーツクラブ」の「器械運動クラブ」を令和8(2026)年度から「体操クラブ」に名称変更し、中学生を対象とした「体操競技ビギナーコース」を新設。同コースを「KOBEDIAMOND KATSU」へ登録申請を行いました。

(5) 教学新機軸V | 世界に通じる特色ある研究力の活用と展開

① 第2回「甲南大学先端研究社会実装シンポジウム」の開催

研究力の発信と成果の社会実装を目的に、令和7(2025)年11月に第2回「甲南大学先端研究社会実装シンポジウム」を開催しました。本学卒業生である株式会社東芝 代表取締役社長執行役員 CEOの島田 太郎氏からAIや近未来の展望などについて基調講演いただいたほか、フロンティアサイエンス学部 長濱 宏治教授による再生医療と機能性ゲルに関する講演が行われました。また、教員6名による研究シーズプレゼンや、大学院生77名によるポスター展示なども実施し、企業関係者や学生など424名が来場する活気あるイベントとなりました。

■ 株式会社東芝 代表取締役社長執行役員 CEO 島田 太郎氏による基調講演



② ビジネス・イノベーション研究所 設立20周年記念事業の実施

甲南大学ビジネス・イノベーション研究所の設立20周年を記念して、神戸地域で経営者として活躍される卒業生と企業の協力のもと令和8(2026)年3月に公開研究会「神戸地域企業のイノベーションを考える」の開催および甲南大学出版会から書籍「神戸企業のイノベーション 一港町における新・旧価値の融合」を出版いたしました。

(6) 教学新機軸VI | KONANクオリティの追求と創造

甲南大学リサーチフェスタを6年ぶりに対面で開催

高校生の探究成果と大学生・大学院生の研究成果を持ち寄り、交流と多様な視点に触れることで新たな気づきや発想を生み出す「甲南大学リサーチフェスタ」は、コロナ禍以降オンライン形式の開催になっておりましたが、令和7(2025)年12月に6年ぶりに対面開催を行いました。当日は、高校生73件(38校)、大学生・大学院生36件の合計109件の発表があり、合計430名の参加となりました。

3. 高等学校・中学校

学園中期計画のもとで令和3(2021)年度に、「中期行動計画」を定め、4つの柱(「教育環境の整備」「教育プログラムの開発・整備」「高中運営の持続的発展」「国際交流の推進」)に沿ったアクションプランを推進しました。

[令和7(2025)年度における主な取組み]

(1) 教育環境の整備

不登校生、教室に入りづらい生徒を対象に英語準備室の一部を生徒支援室として整備し、運用を開始。生徒支援委員会を中心に個々の生徒対応を検討するとともに、甲南大学より学生達がラーニングサポーターとして支援を行うなどの取組みも開催しています。令和8(2026)年度より始動する第2次中期計画においても、生徒支援の強化・充実に取組み、多様な学びへの対応と個性を尊重した生徒の成長を支援する教育環境の整備に取り組む計画を策定しました。

(2) 教育プログラムの開発・整備

① ソフィア講演会の開催

各界の第一線で活躍される専門家の知見に直接触れ、生徒の多角的な思考力と教養を養う「ソフィア講演会」を計2回開催いたしました。第1回は令和7(2025)年6月にNHK解説主幹の鴨志田郷氏を招き、講演。紛争地での取材経験に基づく過酷な実情やジャーナリストの姿勢、メディアが社会に及ぼす影響について解説され、生徒が国際情勢や報道の役割を深く考察する機会となりました。第2回は令和7(2025)年9月に育友会文化講演会との共催によりポートピアホテル国際会議場にて実施。世界的指揮者の佐渡裕氏を迎え、「ティーンエイジャーが奇跡を起こす」と題し、本校校長らを聞き手とした対談形式で行われました。

■ ソフィア講演会の様子



② 第8回グローバル・リサーチフェアの開催

生徒を中心に教員や保護者がともに学び合う「学びの共同体」の実現を目的として令和7(2025)年12月に第8回「グローバル・リサーチフェア」を開催いたしました。グローバルスタディプログラムに所属する高校2年生による研究発表と、高校1年生による震災をテーマとしたポスター発表を実施。指導助言者として甲南大学から6名の教員が参画し、専門的な視点から多角的な講評も実施しました。

■ グローバル・リサーチフェアの様子



③ OBの協力を得たキャリア教育の推進

令和7(2025)年11月に高校1年生対象の「OBワークショップ」を開催しました。多彩な分野で活躍する卒業生8名を講師に迎え、各職業に関するワークショップを実施しました。各講師からは仕事の魅力や本校での学びの意義、「誰かのために働く」という利他の精神が語られました。身近な先輩の生きた言葉を通じて生徒の職業観を育む、実践的なキャリア教育の場となりました。

④ 地域との協働「スマホ講座5周年記念」

芦屋市茶屋之町自治会と協働で実施する高齢者向け「スマホ講座」が5周年を迎え、令和7(2025)年12月に記念行事を開催しました。本講座はボランティア委員会の生徒が主体となり高齢者に操作を教える活動で、これまでに計35回、延べ約300名が参加しました。世代間交流を通じて、生徒の伝える力や他者に寄り添う姿勢を育成し、多様な価値観を学ぶ実践的な教育プログラムとして定着しています。

■ スマホ講座の様子



今後も社会福祉協議会等の関係機関と連携を図り、地域社会との協働を通じた実践的な学びの場として、本活動の環境整備と充実を進めてまいります。

III.事業の概要

3. 高等学校・中学校

⑤ 大阪・関西万博での最先端科学学習

中学2年生を対象に「2025年大阪・関西万博」の大阪ヘルスケアパビリオンを訪問する体験型学習を6月18日に実施。健康データ測定に基づく25年後の自身のアバターとの対面や、パーソナルデータに応じた食品提案システムの体験、iPS細胞由来の心筋シートの見学を行いました。

最先端の生命科学や次世代のヘルスケア技術に直接触れることで、未来の医療や健康のあり方について探究を深める実践的な教育プログラムとなりました。

■ 大阪・関西万博体験学習の様子



⑥ 薬物・性非行防止講演会

兵庫県警の協力を得て、中学生に「性非行防止プログラム」、高校生に「薬物乱用防止講演」を令和7(2025)年6月に開催。SNSのトラブルや薬物乱用、闇バイトへの関与など、青少年を取り巻く多様なリスクと法的責任について専門的な指導を受けました。法令遵守の精神を培い、自らの身を守るための情報モラルや危機管理能力を養う、実践的な教育プログラムとして実施いたしました。

⑦ 甲南中高大10年一貫教育の推進

中高大連携による実践的な学びの一環として、本校生徒が甲南大学生と協働し、地域課題の解決に取り組んでいます。令和7(2025)年11月の「関西湾岸SDGsチャレンジ」では、高校生4名が大学生とチームを組み、「神戸市の空き家問題」に関する実地調査と解決策を提案し、優秀賞を受賞しました。さらに12月には甲南大学で開催された大学都市神戸産官学プラットフォームが主催する「KOBE SDGsマルシェ」にも参加し、探究活動の成果を広く市民へ発信しました。大学生や地域社会との協働を通じた課題解決型学習は、10年一貫教育が目指す主体的な学びを深める貴重な教育機会となっています。

■ KOBE SDGsマルシェの様子



(3) 高等学校・中学校運営の持続的発展

甲南大学との連携強化および双方の発展を目指し、両教職員で構成する高大接続検討チームを発足させ、内部進学における連携・進路指導、大学進学後における学生指導・支援等高大接続に関する課題についての検討を行いました。学校安全の危機管理では、不審者侵入を想定した教員研修を実施。振り返りの結果を踏まえ、校内全ての普通教室に刺股を配備しました。

(4) 国際交流の推進

生徒の国際的な視野と実践的な語学力を養うため、多様な国際交流プログラムを実施いたしました。

国内では、甲南大学の留学生を招き、中学2年生が英語で実践的なコミュニケーションに挑戦する「インターカルチャーデー」を開催しました。令和7(2025)年4月初旬には中3・高1対象の1泊2日の英語合宿「グローバル・スプリング・セミナー」を実施し、多国籍な留学生との交流を通じて多様性への理解を深めました。また、令和8(2026)年2月には中学1・2年生による「English Day」を開催し、日頃の成果として英語の劇や発表を披露し、表現する達成感を共有しました。

■ インターカルチャーデーの様子



■ アジアスタディツアーの様子



海外研修としては、台湾にて5日間にわたる「アジアスタディツアー」を実施しました。現地の文化や歴史、半導体産業がもたらす影響などを学び、様々な立場の方々と直接交流する貴重な機会を得ました。

これらの活動を通じ、将来の進路や社会との関わりを考える契機とし、主体的なコミュニケーション能力の育成に努めました。

4. 法人

学園中期計画のもとで令和2(2020)年度に定めた「中期行動計画」に基づき、KONAN-CFTおよび各部課室の取組みを推進しました。

[令和7(2025)年度における主な取組み]

(1) 学園運営の一層の健全化

学校法人のガバナンスを強化し、透明性と説明責任を高めるための大規模な制度改正である改正私学法(令和7(2025)年4月施行)への対応を行うため、改正私学法を踏まえた「学校法人甲南学園寄附行為」などの規程を整備し、令和7(2025)年6月より同法令に対応した新体制での学園運営を開始しました。

また、私立大学連盟「私立大学ガバナンス・コード2.1版」に対応し、同コードを適用した遵守状況報告を行いました。遵守に向けて、理事・評議員への研究機会の提供、理事と教学の意見交換会の実施、研究インテグリティ確保にかかる体制整備などを行い、令和8(2026)年3月開催の理事会において全ての実施項目への対応を確認のうえ、日本私立大学連盟へ「遵守」の報告を行いました。

加えて、「甲南学園リスク管理規程」に基づき、理事会・リスク管理委員会を軸としたリスク管理体制の運用として、全部署を対象としたリスク実態調査、リスク分析、優先度の高いリスクの決定、リスク対応計画の策定・推進等を組織的に行いました。

(2) 財政基盤の強化

第2次中期計画の策定において、物価高騰に対応しつつ教育の質向上を実現するための財政基盤強化について検討を行いました。また、学納金収入以外の財源多様化を図るため、引き続き募金活動を推進。「KONAN未来サポーターズ募金」では、令和7(2025)年度末時点で810件、約3,027万円のご寄付を頂戴し、サポーターになっていただいたみなさまから継続的に本学をご支援いただきました。また、令和8(2026)年4月から開始する「甲南学園創立110周年記念募金」の準備を進めました。

(3) 社会との結節点としての広報機能の拡充

① 第6回「梅と文化の花結日」の開催

梅の季節に合わせて大学と地域、卒業生との絆を深めることを目的とした第6回「梅と文化の花結日」を開催。本学の卒業生で、能楽界で活躍される小鼓方大倉流十六世宗家の人間国宝 大倉 源次郎氏、大鼓方石井流十三世宗家の石井 景之氏の講演や能楽研究部と茶華道料理部道心会に所属する学生達の催しが行われ、会場を訪れた方々と伝統文化に触れ交流を深める1日になりました。

② 朗らかにつながる学園の推進

昨年度に引き続き、令和7(2025)年12月をEVENT MONTHとして、地域とつながるイベントを積極的に展開。12月14日に開催した第6回目となる「キッズフェスティバル2025」(来場者3,464人)など、4つのイベントで合計5,000人以上に甲南大学 岡本キャンパスへ来場いただきました。

わたせせいぞう氏のイラストを用いた広報を継続し、新入生配付用バッグの製作、新たにJR三ノ宮駅、JR姫路駅、阪急西宮北口駅への看板掲出も実施しました。

■ 「梅と文化の花結日」の様子



■ 「キッズフェスティバル」の様子



(4) 安心安全かつ環境にやさしいキャンパス整備

利用者が安心してキャンパスを利用できるよう、施設の安全確保を最優先とし、校舎の外壁補修や屋上の防水工事など中長期保全計画に基づく当該年度の工事を実施しました。また、心地よいキャンパスを推進するため、トイレ洋式化100%の実現など施設の利便性・快適性の向上に取り組みました。

環境面では、省エネ・カーボンニュートラルを推進するため、キャンパス利用者への啓蒙活動と施設設備整備補助金を活用しながら空調機器の更新を行いました。

IV.財務の概要

1. 学校法人会計基準について

本学園の財務の概要をご案内する前に学校法人会計基準と本学園における財務の基本的な考え方について、ご説明いたします。

■ 学校法人会計基準

学校法人は、目的とする教育研究活動を行うにあたり、必要な施設や設備、経営に必要な財産を持つために、自ら調達した資金のほかに国または地方公共団体から経常費の補助を受けています。こうした高い公共性から私立学校法の定めにより、所定の会計ルールである「学校法人会計基準」に則った会計処理と計算書類の作成、会計監査人による監査が義務付けられています。また、当該補助金の交付を受ける学校法人は、私立学校振興助成法の定め等により、作成した計算書類等について公認会計士または監査法人による監査を受けて、所轄庁に届け出ることが義務付けられています。企業会計は資本の投下・回収という営利活動の成果と財政状態を利害関係者に開示することを目的とする一方、学校法人は教育研究活動という極めて公共性の高い事業を遂行することを目的としており、この教育研究活動を円滑に遂行するために、財政の安定と持続性を保つことが求められています。そのため学校法人会計は、企業会計のような「損益」の開示ではなく、今後の活動を継続的かつ安定的に遂行するため、収支均衡の状況と財政の状態を正確に捉えることを目的としています。

■ 計算書

上記の目的のため、「学校法人会計基準」に基づき、計算書類として「貸借対照表」、「事業活動収支計算書」、「資金収支計算書（活動区分資金収支計算書を含む）」の作成が義務付けられています。

(1)資金収支計算書

当該会計年度に行った諸活動に対応する全ての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入と支出の内容を明らかにするとともに、支払資金(現預金)の顛末を示すものです。活動区分資金収支計算書は、これを「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の区分に分けたものです。

(2)事業活動収支計算書

当該会計年度の事業活動ごとの収支の内容と均衡状態を明確にし、経営状況を表すものです。学校法人の活動を ①教育活動 ②教育活動以外の経常的な活動 ③それ以外の活動(特別収支)に分けて、それぞれの収支差額を計算しています。

その合計を、「基本金組入前当年度収支差額」として明記し、そこから基本金組入額を控除したものが当年度収支差額となります。

収支の均衡の状態は、「当年度収支差額」で判断します。

<基本金とは>

学校法人が諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な資産を継続的に保持するための金額であり、以下のとおり、第1号基本金から第4号基本金まであります。

- ・第1号基本金...設立や規模の拡大若しくは教育の充実向上のために取得した固定資産の額
- ・第2号基本金...将来取得する固定資産に充てる金銭その他の資産の額
- ・第3号基本金...基金として継続的に保持し、運用する金銭その他の資産の額
※ 基金の元本から生じる果実は教育研究活動に使用されます。
- ・第4号基本金...恒常的に保持すべき資金
※ 円滑な運営に必要な運転資金を常時保持するため、一定額の資金を基本金とします。

(3)貸借対照表

期末(年度末)における資産・負債・純資産(基本金及び収支差額)を表記し、財政状態を明らかにして健全性・安定性を示すものです。

2. 本学園における財務の基本的な考え方

本学園では事業活動収支の均衡を意識しており、学生・生徒から頂いた学費を可能な限り教育・研究を中心とした支出に充当すべく、予算を編成しています。また執行に際しては、入札や見積取得を丁寧に実施し、支出の抑制に取り組んでいます。さらに快適なキャンパスライフを送っていただけるよう施設面の更新・刷新を意識しながら、同時に再投資資金を確保するとともに、施設・情報化投資に資する中長期的なランドデザインを描くことで、効率的な投資を計画しています。甲南に来て良かったと思っていただき、末永く在学生・卒業生とともに「つながる学園」であるために、無借金経営や学生・生徒に還元する財務構造を維持していきます。

3. 決算の概要

(1) 資金収支計算書

(単位：百万円)

収入の部				支出の部			
科目	決算	予算	差異 (決算－予算)	科目	決算	予算	差異 (決算－予算)
学生生徒等納付金収入	11,879	11,829	50	人件費支出	7,567	7,559	8
手数料収入	763	695	67	教育研究経費支出	5,233	5,488	△ 254
寄付金収入	235	225	9	管理経費支出	1,111	958	153
補助金収入	2,597	2,489	107	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	298	302	△ 3	施設関係支出	3,942	2,678	1,263
受取利息・配当金収入	786	351	434	設備関係支出	476	514	△ 37
雑収入	258	198	60	資産運用支出	4,948	3,588	1,359
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	1,074	1,091	△ 17
前受金収入	1,653	1,643	9	予備費		0	0
その他の収入	7,145	5,917	1,227	資金支出調整勘定	△ 561	△ 496	△ 64
資金収入調整勘定	△ 1,938	△ 1,809	△ 128	翌年度繰越支払資金	10,070	10,645	△ 574
前年度繰越支払資金	10,182	10,182	0	収入の部合計	33,862	32,026	1,836
収入の部合計	33,862	32,026	1,836	支出の部合計	33,862	32,026	1,836

※記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■ 概要

令和7(2025)年度の資金収支の規模は33,862百万円（予算比1,836百万円増）となりました。収入面では、キャンパス整備に伴う特定資産の取崩し（その他の収入）および受取利息・配当金収入の増加等により、総額で予算を上回りました。一方、支出面においては、施設関係支出と資産運用支出（特定資産への積立）の合計で予算比2,622百万円増と大きく増加しました。この結果、当年度末における翌年度繰越支払資金は10,070百万円となり、前年度比で112百万円の減少、予算比で574百万円の減少となりました。

■ 過去5年間の推移

(単位：百万円)

(単位：百万円)

収入の部						支出の部					
科目	2021	2022	2023	2024	2025	科目	2021	2022	2023	2024	2025
学生生徒等納付金収入	10,988	11,198	11,261	11,590	11,879	人件費支出	7,768	7,708	7,736	7,722	7,567
手数料収入	466	520	611	764	763	教育研究経費支出	3,831	4,145	4,284	4,404	5,233
寄付金収入	161	157	152	263	235	管理経費支出	583	622	710	1,057	1,111
補助金収入	1,920	1,789	1,952	1,938	2,597	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
資産売却収入	36	14	0	0	0	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	240	319	283	318	298	施設関係支出	761	683	773	1,041	3,942
受取利息・配当金収入	290	357	401	531	786	設備関係支出	303	320	425	430	476
雑収入	444	344	347	360	258	資産運用支出	3,726	3,539	3,687	4,715	4,948
借入金等収入	0	0	0	0	0	その他の支出	1,066	1,110	967	1,075	1,074
前受金収入	2,133	1,942	1,870	1,643	1,653	資金支出調整勘定	△ 724	△ 632	△ 836	△ 600	△ 561
その他の収入	3,181	3,099	3,204	4,489	7,145	翌年度繰越支払資金	10,406	10,253	10,267	10,182	10,070
資金収入調整勘定	△ 2,335	△ 2,399	△ 2,323	△ 2,140	△ 1,938	収入の部合計	27,724	27,751	28,015	30,029	33,862
前年度繰越支払資金	10,195	10,406	10,253	10,267	10,182	支出の部合計	27,724	27,751	28,015	30,029	33,862
収入の部合計	27,724	27,751	28,015	30,029	33,862						

※記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

IV.財務の概要

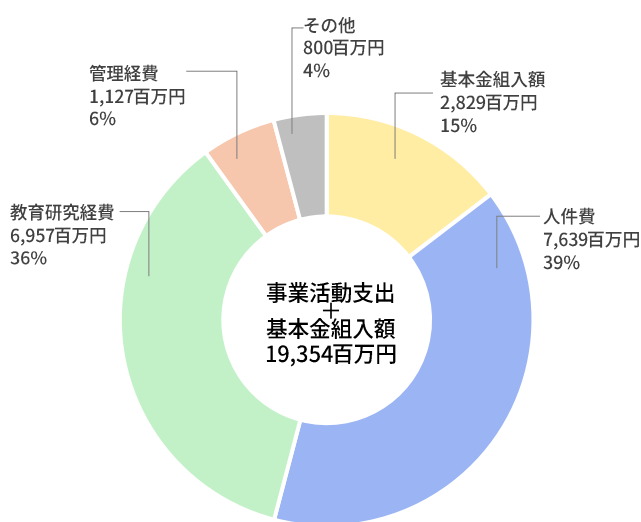
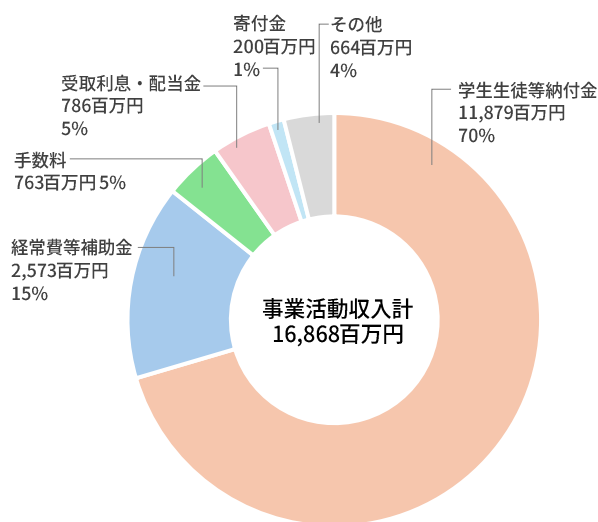
3. 決算の概要

(2) 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科目	決算	予算	差異 (決算－予算)	科目	決算	予算	差異 (決算－予算)
学生生徒等納付金	11,879	11,829	50	資産売却差額	0	0	0
手数料	763	695	67	その他の特別収入	92	66	26
寄付金	200	221	△ 20	特別収入計	92	66	26
経常費等補助金	2,573	2,477	95	資産処分差額	154	0	154
付随事業収入	298	302	△ 3	その他の特別支出	645	646	0
雑収入	274	198	75	特別支出計	800	646	153
教育活動収入計	15,989	15,724	264	特別収支差額	△ 707	△ 580	△ 127
人件費	7,639	7,664	△ 25	[予備費]		0	0
教育研究経費	6,957	7,237	△ 280	基本金組入前当年度収支差額	343	△ 379	723
管理経費	1,127	973	154	基本金組入額合計	△ 2,829	△ 2,313	△ 516
徴収不能額等	0	0	0	当年度収支差額	△ 2,485	△ 2,692	207
教育活動支出計	15,724	15,875	△ 151	前年度繰越収支差額	△ 18,248	△ 18,248	0
教育活動収支差額	264	△ 151	416	基本金取崩額	0	0	0
受取利息・配当金	786	351	434	翌年度繰越収支差額	△ 20,733	△ 20,940	207
その他の教育活動外収入	0	0	0	(参考)			
教育活動外収入計	786	352	434	事業活動収入計	16,868	16,142	725
借入金等利息	0	0	0	事業活動支出計	16,524	16,521	2
その他の教育活動外支出	0	0	0				
教育活動外支出計	0	0	0				
教育活動外収支差額	786	352	434				
経常収支差額	1,051	200	850				

※記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。



■ 概要

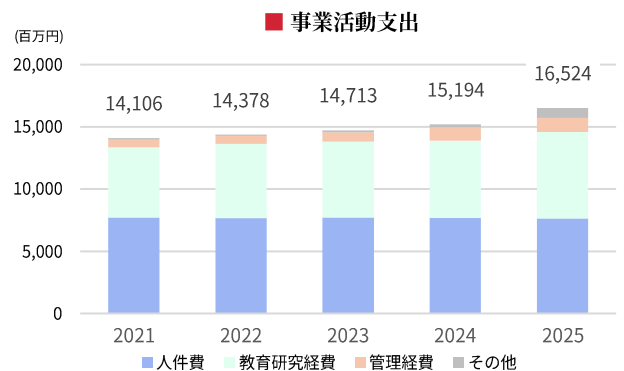
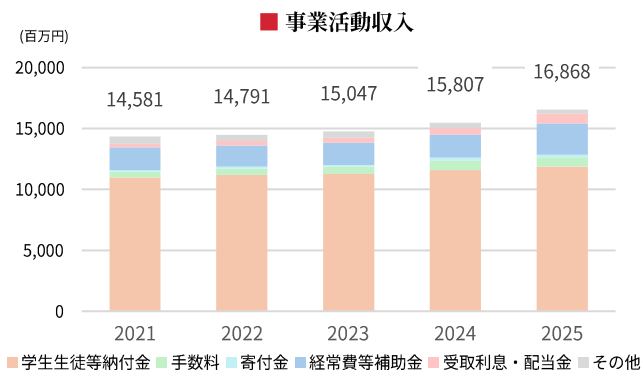
令和7(2025)年度は、手数料収入（入学検定料収入等）や補助金収入の増加に加え、資産運用等による受取利息・配当金が大きく寄与し、法人の基礎的な経営状態を示す「経常収支差額」が1,051百万円(予算比850百万円増)と大幅な黒字を達成しました。臨時的な特別支出（賞与引当金特別繰入額等）を計上した後の基本金組入前当年度収支差額も343百万円のプラスとなりました。最終的な「当年度収支差額」は、キャンパス整備に伴う「基本金組入」（△2,829百万円）を実施した結果として△2,485百万円となっていますが、予算比では207百万円改善、事業活動収支差額比率が2.0%となり、総じて堅調な決算となりました。

■ 過去5年間の推移

(単位：百万円)

科目	2021	2022	2023	2024	2025
学生生徒等納付金	10,988	11,198	11,261	11,590	11,879
手数料	466	520	611	764	763
寄付金	138	153	146	248	200
経常費等補助金	1,861	1,744	1,821	1,894	2,573
付随事業収入	240	319	283	318	298
雑収入	444	346	353	362	274
教育活動収入計	14,139	14,282	14,478	15,178	15,989
人件費	7,713	7,672	7,721	7,692	7,639
教育研究経費	5,640	5,970	6,097	6,203	6,957
管理経費	604	643	729	1,075	1,127
徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	13,958	14,286	14,548	14,971	15,724
教育活動収支差額	181	△ 4	△ 69	206	264
受取利息・配当金	289	357	401	530	786
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	290	357	401	530	786
借入金等利息	0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	290	357	401	530	786
経常収支差額	471	353	331	737	1,051
資産売却差額	10	11	0	0	0
その他の特別収入	140	140	167	97	92
特別収入計	150	152	167	97	92
資産処分差額	147	91	164	222	154
その他の特別支出	0	0	0	0	645
特別支出計	147	91	164	222	800
特別収支差額	3	60	2	△ 124	△ 707
基本金組入前当年度収支差額	474	413	333	613	343
基本金組入額合計	△ 417	△ 628	△ 677	△ 1,488	△ 2,829
当年度収支差額	57	△ 214	△ 343	△ 875	△ 2,485
前年度繰越収支差額	△ 17,031	△ 16,948	△ 17,160	△ 17,504	△ 18,248
基本金取崩額	25	2	0	131	0
翌年度繰越収支差額	△ 16,948	△ 17,160	△ 17,504	△ 18,248	△ 20,733
(参考)					
事業活動収入計	14,581	14,791	15,047	15,807	16,868
事業活動支出計	14,106	14,378	14,713	15,194	16,524

※ 記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。



IV.財務の概要

3. 決算の概要

(3) 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	資産の部			科目	負債の部		
	2025	2024	増減		2025	2024	増減
固定資産	82,900	81,935	964	固定負債	4,425	4,400	24
有形固定資産	57,987	55,413	2,574	長期借入金	0	0	0
土地	23,763	22,413	1,349	長期未払金	54	93	△ 38
建物	23,889	24,571	△ 682	退職給与引当金	4,371	4,307	63
構築物	1,126	1,292	△ 165	流動負債	3,014	2,511	503
教育研究用機器備品	1,734	1,662	71	短期借入金	0	0	0
管理用機器備品	12	7	4	未払金	391	463	△ 71
図書	5,420	5,405	14	前受金	1,654	1,644	9
車輛	0	0	0	賞与引当金	654	0	654
建設仮勘定	2,040	58	1,981	預り金	314	403	△ 88
特定資産	24,715	26,316	△ 1,600	負債の部合計	7,440	6,912	527
第2号基本金引当特定資産	119	855	△ 736	純資産の部			
第3号基本金引当特定資産	5,190	5,177	13	基本金	106,804	103,975	2,829
退職給与引当特定資産	2,185	2,153	31	第1号基本金	100,466	96,914	3,552
償却引当特定資産	11,076	11,922	△ 845	第2号基本金	119	855	△ 736
その他の特定資産	6,143	6,206	△ 63	第3号基本金	5,190	5,177	13
その他の固定資産	197	206	△ 9	第4号基本金	1,028	1,028	0
流動資産	10,610	10,703	△ 93	繰越収支差額	△ 20,733	△ 18,248	△ 2,485
現金預金	10,070	10,182	△ 112	翌年度繰越収支差額	△ 20,733	△ 18,248	△ 2,485
その他の流動資産	540	521	19	純資産の部合計	86,070	85,727	343
資産の部合計	93,511	92,639	871	負債及び純資産の部合計	93,511	92,639	871

※ 記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■ 概要

令和7(2025)年度末の総資産は、前年度比871百万円増の93,511百万円となりました。

当年度はキャンパス・ランドデザインに基づく新15号館(新理系棟)の建築や特高受変電所の移設工事の実施、創立110周年記念事業に基づく学生寮・ゲストハウス建設用地の取得などを実施した結果、土地や建設仮勘定が増加し、有形固定資産は前年度比で2,574百万円増加しました。この施設整備の財源として、計画的に積み立てていた特定資産を取り崩したため、特定資産は1,600百万円減少しています。

負債の部は、会計基準改正への対応として賞与引当金(654百万円)を計上したため一時的に増加していますが、借入金に依存しない無借金経営を継続しています。

これらの結果、純資産合計は86,070百万円となり、将来に向けた教育研究環境の充実と、盤石な財務体質を両立する決算となりました。

■ 過去5年間の推移

(単位：百万円)

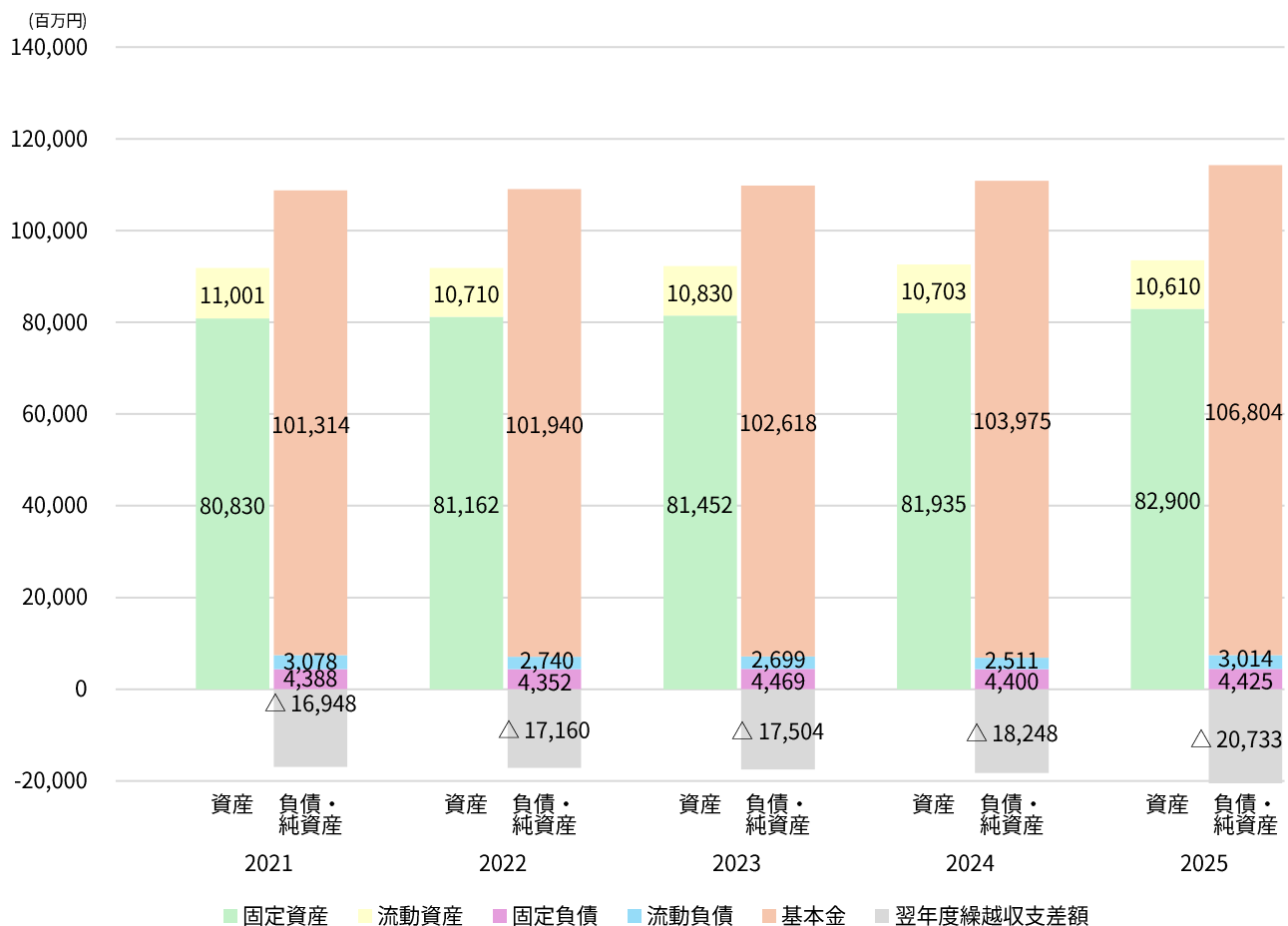
資産の部					
科目	2021	2022	2023	2024	2025
固定資産	80,830	81,162	81,452	81,935	82,900
流動資産	11,001	10,710	10,830	10,703	10,610
資産の部合計	91,832	91,873	92,282	92,639	93,511

※ 記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

負債及び純資産の部					
科目	2021	2022	2023	2024	2025
固定負債	4,388	4,352	4,469	4,400	4,425
流動負債	3,078	2,740	2,699	2,511	3,014
負債の部合計	7,466	7,093	7,168	6,912	7,440
基本金	101,314	101,940	102,618	103,975	106,804
第1号基本金	95,312	95,931	96,594	96,914	100,466
第2号基本金	40	39	39	855	119
第3号基本金	5,137	5,145	5,160	5,177	5,190
第4号基本金	824	824	824	1,028	1,028
繰越収支差額	△ 16,948	△ 17,160	△ 17,504	△ 18,248	△ 20,733
純資産の部合計	84,366	84,780	85,113	85,727	86,070
負債及び純資産の部合計	91,832	91,873	92,282	92,639	93,511

※ 記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。



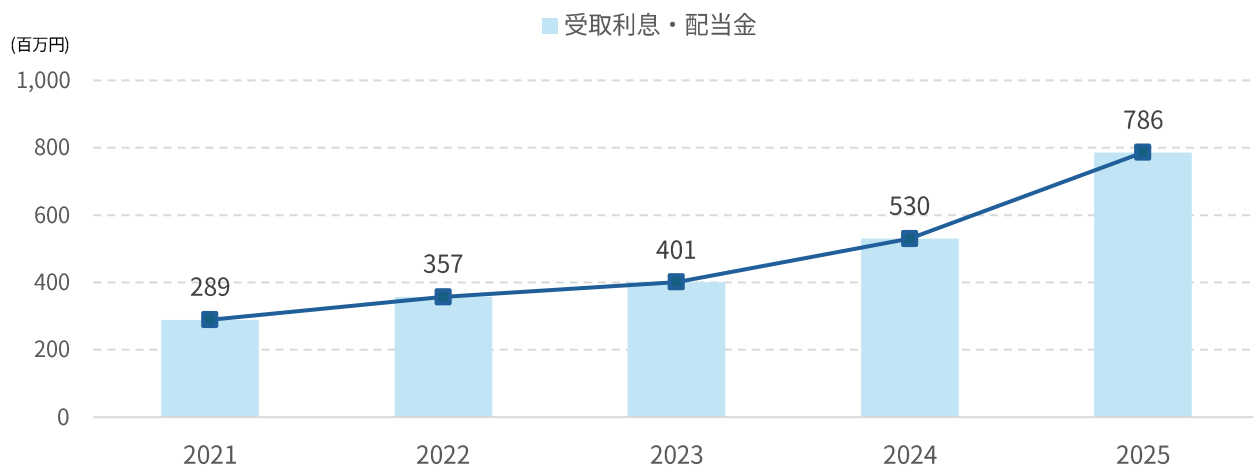
IV.財務の概要

4. 資産運用の状況

■ 資産運用結果の推移

(単位:百万円)

区分	2021	2022	2023	2024	2025
受取利息・配当金	289	357	401	530	786



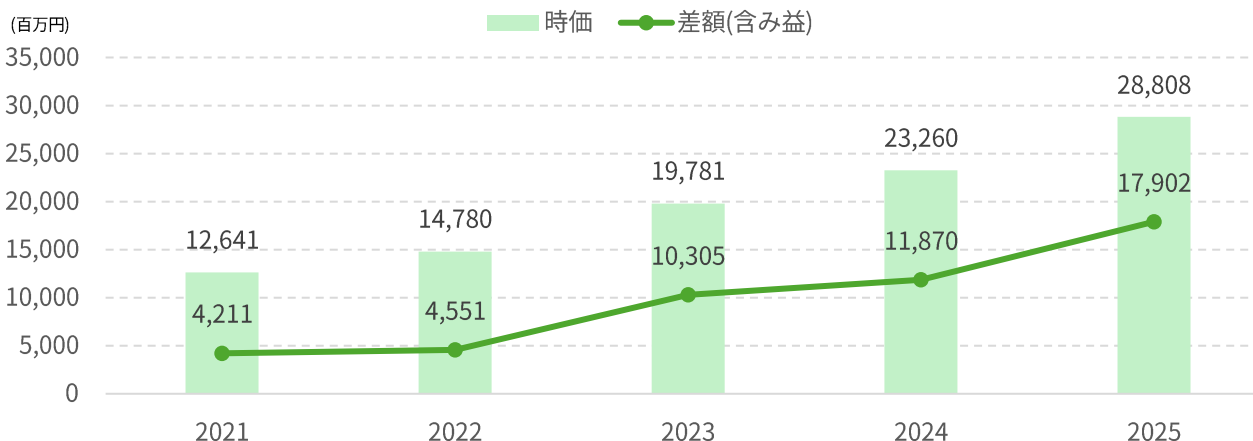
■ 概要

2025年度は、金利高止まり・株価の乱高下・地政学リスクの増大が同時進行した不安定な環境でした。日本では財政拡大観測から株価は上昇した一方、長期金利は急伸し、為替は大きく振れました。本学園では、株式や債券、投資信託等に分散投資し、中長期的な安定収入を期待した運用を心掛けました。結果、配当や利金等のインカム収入が増加したほか、保有株式の一部入れ替えを行い、一時的な株式売却益を計上しました。

■ 有価証券の時価の推移

(単位:百万円)

区分	2021	2022	2023	2024	2025
簿価	8,437	10,237	9,486	11,400	10,917
時価がない有価証券	8	8	10	10	10
時価がある有価証券	8,429	10,229	9,475	11,389	10,906
時価	12,641	14,780	19,781	23,260	28,808
差額(含み益)	4,211	4,551	10,305	11,870	17,902

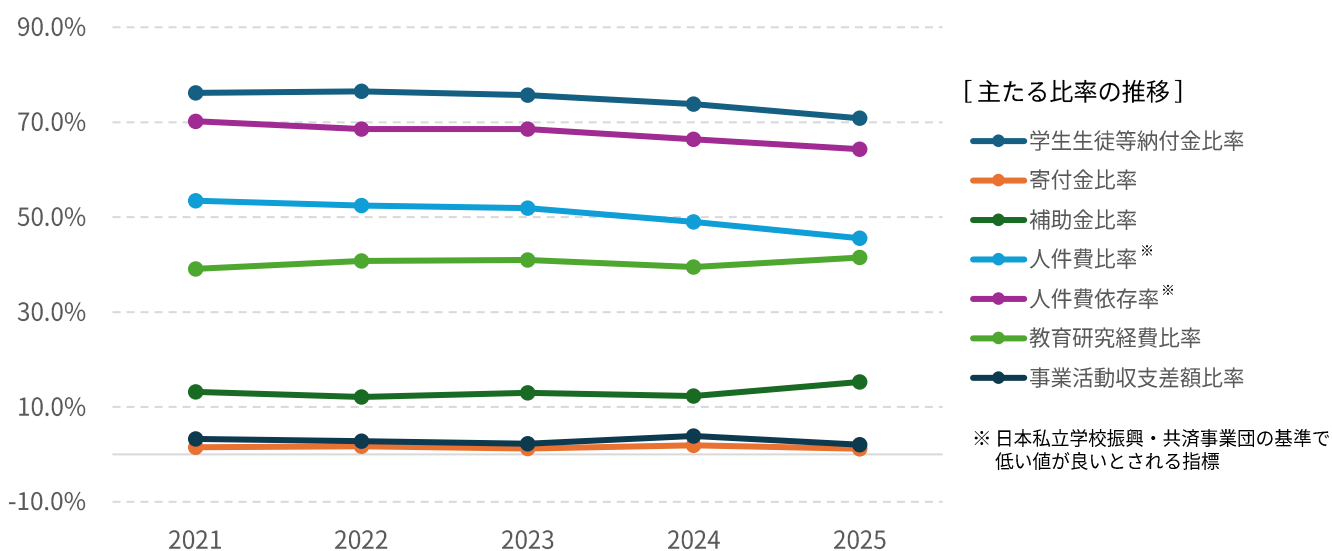


5. 財務比率の推移

■ 事業活動収支計算関連比率の推移

財務比率	算式 (×100)	2021	2022	2023	2024	2025
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	76.1%	76.5%	75.7%	73.8%	70.8%
寄付金比率	寄付金 / 事業活動収入	1.5%	1.7%	1.2%	1.9%	1.2%
経常寄付金比率	教育活動収入の寄付金 / 経常収入	1.0%	1.0%	1.0%	1.6%	1.2%
補助金比率	補助金 / 事業活動収入	13.2%	12.1%	13.0%	12.3%	15.3%
経常補助金比率	教育活動収入の補助金 / 経常収入	12.9%	11.9%	12.2%	12.1%	15.3%
人件費比率 [※]	人件費 / 経常収入	53.5%	52.4%	51.9%	49.0%	45.5%
人件費依存率 [※]	人件費 / 学生生徒等納付金	70.2%	68.5%	68.6%	66.4%	64.3%
教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入	39.1%	40.8%	41.0%	39.5%	41.5%
管理経費比率 [※]	管理経費 / 経常収入	4.2%	4.4%	4.9%	6.8%	6.7%
借入金等利息比率 [※]	借入金等利息 / 経常収入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
基本金組入率	基本金組入額 / 事業活動収入	2.9%	4.3%	4.5%	9.4%	16.8%
基本金組入後収支比率 [※]	事業活動支出 / (事業活動収入 - 基本金組入額)	99.6%	101.5%	102.4%	106.1%	117.7%
経常収支差額比率	経常収支差額 / 経常収入	3.3%	2.4%	2.2%	4.7%	6.3%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入	3.3%	2.8%	2.2%	3.9%	2.0%

※日本私立学校振興・共済事業団の基準で低い値が良いとされる指標



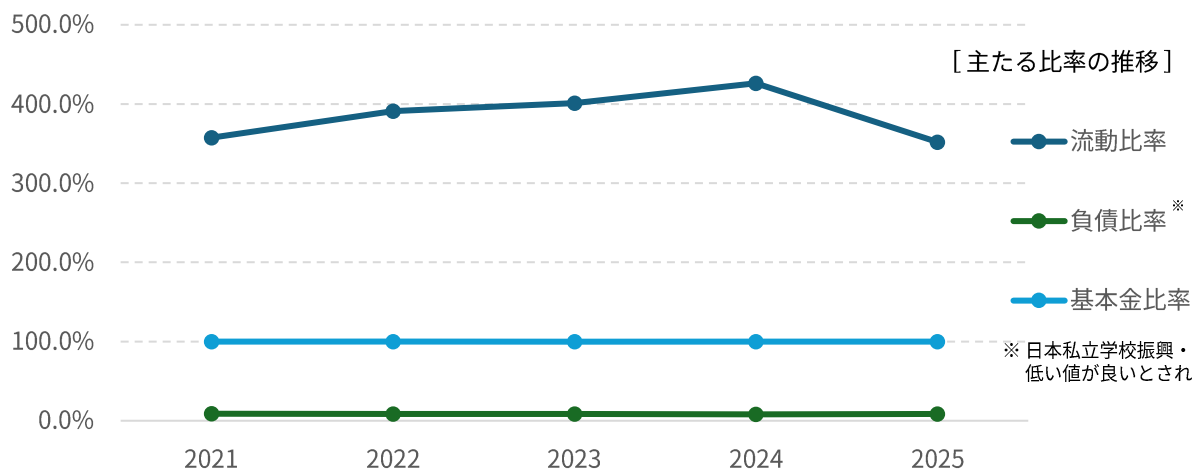
IV.財務の概要

5. 財務比率の推移

■ 貸借対照表関連比率の推移

財務比率	算式 (×100)	2021	2022	2023	2024	2025
固定資産構成比率 [※]	固定資産 / 総資産	88.0%	88.3%	88.3%	88.4%	88.7%
流動資産構成比率	流動資産 / 総資産	12.0%	11.7%	11.7%	11.6%	11.3%
固定負債構成比率 [※]	固定負債 / 負債+純資産	4.8%	4.7%	4.8%	4.8%	4.7%
流動負債構成比率 [※]	流動負債 / 負債+純資産	3.4%	3.0%	2.9%	2.7%	3.2%
純資産構成比率	純資産 / 負債+純資産	91.9%	92.3%	92.2%	92.5%	92.0%
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 / 負債+純資産	-18.5%	-18.7%	-19.0%	-19.7%	-22.2%
固定比率 [※]	固定資産 / 純資産	95.8%	95.7%	95.7%	95.6%	96.3%
固定長期適合率 [※]	固定資産 / 純資産+固定負債	91.1%	91.1%	90.9%	90.9%	91.6%
流動比率	流動資産 / 流動負債	357.4%	390.8%	401.2%	426.2%	351.9%
総負債比率 [※]	総負債 / 総資産	8.1%	7.7%	7.8%	7.5%	8.0%
負債比率 [※]	総負債 / 純資産	8.9%	8.4%	8.4%	8.1%	8.6%
運用資産余裕比率	(運用資産-外部負債) / 経常支出	235.3%	238.0%	239.9%	240.1%	218.4%
前受金保有率	現金預金 / 前受金	487.6%	527.7%	548.9%	619.2%	608.8%
積立率	運用資産 / 要積立額	70.7%	70.7%	70.8%	70.5%	67.3%
基本金比率	基本金 / 基本金要組入額	100.0%	100.0%	99.8%	99.9%	99.9%

※日本私立学校振興・共済事業団の基準で低い値が良いとされる指標



V.内部統制の概要

1. 内部統制システムの運用および更なる強化

(1) 経営に関する管理体制

改正私学法を踏まえた「学校法人甲南学園寄附行為」、常任理事会の決議機関としての位置付けを明確化した同施行細則、「甲南学園理事会運営内規」および「甲南学園評議員会運営内規」等を整備し、法人会議の適切な運営を行いました。併せて、理事・評議員への研究機会の提供を行うとともに、理事と教学の意見交換会を実施しました。また、理事の担当業務の明確化および理事会への定期的な報告を通じて、理事の職務執行に対する監督機能の確保を図りました。

加えて、私立大学連盟「私立大学ガバナンス・コード2.1版」に対応し、同コードを適用した遵守状況報告を行いました。

(2) リスク管理に関する体制

「甲南学園リスク管理規程」に基づき、理事会・リスク管理委員会を軸としたリスク管理体制の運用として、全部署を対象としたリスク実態調査、リスク分析、優先度の高いリスクの決定、リスク対応計画の策定・推進等を組織的に行いました。また、リスク管理の統括およびモニタリングの実効性確保に向け、総務課による一元的な管理と、監査部による独立的なモニタリングとの役割分担の下で運用を行いました。

リスク対応計画の推進の一環として、大規模地震を想定した防災訓練を実施し、初動対応マニュアルに基づく学生・教職員への安否確認訓練、災害対策本部のシミュレーション等を行いました。併せて、初動対応体制の実行性向上に必要な備蓄品の整理を行いました。

加えて、サイバー攻撃を想定したCSIRT(Computer Security Incident Response Team)訓練を、専門企業と連携して実施しました。

さらに、攻め(価値提供)と守り(リスク事象の予防等)の両面を俯瞰した付加価値創造を行い、各リスク事象にフィードフォワードに対応するリスクヘッジ戦略の検討を行いました。

(3) コンプライアンスに関する管理体制

改正労働施策総合推進法への対応およびステークホルダーとの関係性向上の観点から、苦情等およびカスタマーハラスメントへの対応体制の整備を行いました。

また、研究インテグリティの確保に向け、関係規程の整備を行いました。

加えて、対象ごとに実効性を見直したうえで、ハラスメント防止研修ならびに情報セキュリティ・個人情報保護研修を実施しました。

(4) 監査環境の整備(監事の監査業務の適正性を確保するための体制)

改正私学法を踏まえた「甲南学園監事監査規程」および「甲南学園内部監査規程」に基づき、内部統制システム全般に係るモニタリングを行いました。

また、監事の活動内容について、評議員会への共有を行いました。

(5) 学内PDCAサイクルの継続的な運用

部局・プロジェクト毎に「部局・プロジェクト事業報告書」を作成し、「部局・プロジェクト成果発表会」を実施しました。これにより「甲南学園中期計画ダッシュボード」のKGI、KPI等への影響・貢献度や、「KONANクオリティ・プラス」プロジェクトで掲げた目標の達成度を確認し、次年度の活動計画に反映しました。

また、学園単年度PDCA、教学PDCA(内部質保証PDCA)、学園中期計画の進捗管理、業務標準化SDCA等、学内に複数存在するマネジメントサイクルに用いる様式を一本化した「KONAN-PDCAシート」を活用し、効率的かつ一体的なPDCAを推進しました。

VI.基本データ

1. 学生数・生徒数(令和7(2025)年5月1日現在)

	研究科	修士課程			博士後期課程		
		入学定員	収容定員	実員	入学定員	収容定員	実員
大学院	人文科学研究科	26	52	23	10	30	8
	自然科学研究科	39	78	113	8	24	6
	社会科学研究科	20	40	9	3	9	10
	フロンティアサイエンス研究科	15	30	37	2	6	10
	合計	100	200	182	23	69	34
大学	学部 学環	入学定員		収容定員		実員	
	文学部	405		1,620		1,921	
	理工学部	155		620		699	
	経済学部	345		1,380		1,577	
	法学部	330		1,320		1,553	
	経営学部	345		1,380		1,611	
	知能情報学部	120		480		557	
	マネジメント創造学部	170		680		779	
	フロンティアサイエンス学部	45		180		208	
	グローバル教養学環	25		100		50	
合計	1,940		7,760		8,955		
高等学校	学校区分	入学定員		収容定員		実員	
	高等学校	200		600		556	
	中学校	175		525		534	

2. 入学試験状況(令和8(2026)年度入学試験)

	研究科	修士課程			博士後期課程		
		志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
大学院	人文科学研究科	19	18	13	1	1	1
	日本語日本文学専攻	3	3	3	0	0	0
	英語英米文学専攻	1	1	1	1	1	1
	応用社会学専攻	11	10	5	0	0	0
	人間科学専攻	4	4	4	0	0	0
	自然科学研究科	94	92	89	4	3	3
	物理学専攻	20	20	20	1	1	1
	化学専攻	20	19	19			
	生物学専攻	23	23	23			
	生命・機能科学専攻				1	1	1
	知能情報専攻	22	21	18	0	0	0
	環境・エネルギー工学専攻	9	9	9	2	1	1
	社会科学研究科	14	12	9	6	6	5
	経済学専攻	11	9	7			
	経営学専攻	3	3	2	6	6	5
	フロンティアサイエンス研究科	19	19	18	3	2	2
	生命化学専攻	19	19	18	3	2	2
	合計	146	141	129	14	12	11
	大学	学部学科 学環	一般選抜入試			一般選抜入試以外	
		志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
文学部		6,489	6,096	1,090	1,627	1,604	335
日本語日本文学科		1,124	1,065	184	264	259	55
英語英米文学科		1,426	1,354	236	411	404	86
社会学科		1,345	1,228	222	311	309	79
人間科学科		1,644	1,556	271	451	445	72
歴史文化学科		950	893	177	190	187	43
理工学部		2,926	2,717	777	459	447	168
宇宙理学・量子物理工学科		851	768	252	118	111	39
生物学科		715	675	175	137	135	36
物質化学科		907	841	217	115	113	48
環境・エネルギー工学科		453	433	133	89	88	45
経済学部		4,036	3,695	751	1,041	1,021	293
法学部		3,806	3,566	724	816	808	255
経営学部		4,008	3,749	731	1,514	1,486	289
知能情報学部		1,619	1,451	406	395	378	132
マネジメント創造学部		1,290	1,196	279	667	628	180
フロンティアサイエンス学部		705	651	218	159	146	63
グローバル教養学環		65	62	7	182	171	46
合計	24,944	23,183	4,983	6,860	6,689	1,761	

2. 入学試験状況(令和8(2026)年度入学試験)

高等学校 中学校	学校区分	志願者数	受験者数	合格者数
	高等学校	31	31	27
	中学校	832	585	357

3. 留学生数(令和7(2025)年度)

学校区分	海外への派遣	海外からの受入
大学	277	111
高等学校・中学校	124	4

4. 学位授与数(令和7(2025)年度内に授与した数)

学士	卒業者数	修士	授与者数	博士	授与者数
文学部	485	人文科学研究科	12	人文科学研究科	1
日本語日本文学科	86	日本語日本文学専攻	2	日本語日本文学専攻	0
英語英米文学科	96	英語英米文学専攻	4	英語英米文学専攻	0
社会学科	110	応用社会学専攻	2	応用社会学専攻	1
人間科学科	110	人間科学専攻	4	人間科学専攻	0
歴史文化学科	83	自然科学研究科	53	自然科学研究科	0
理工学部	145	物理学専攻	8	物理学専攻	0
物理学科	52	化学専攻	22	生命・機能科学専攻	0
生物学科	40	生物学専攻	17	知能情報学専攻	0
機能分子化学科	53	知能情報学専攻	6	社会科学研究科	0
経済学部	372	社会科学研究科	3	経営学専攻	0
法学部	363	経済学専攻	1	フロンティアサイエンス研究科	5
経営学部	379	経営学専攻	2	生命化学専攻	5
知能情報学部	142	フロンティアサイエンス研究科	14	合計	6
マネジメント創造学部	190	生命化学専攻	14		
フロンティアサイエンス学部	50	合計	82		
グローバル教養学環	0				
合計	2,126				

5. 卒業生累計数(令和8(2026)年3月31日現在)

学部	119,022	旧制中学校・旧制高等学校	1,888
大学院(修士)	2,948	新制高等学校	13,656
大学院(博士)	197		

6. 卒業生の就職状況(令和7(2025)年度卒業)

就職率	学部卒	大学院修了(修士・博士)
就職者数÷就職希望者数	99.0%	98.5%
業種別の就職割合	学部卒	大学院修了(修士・博士)
サービス業	23.0%	11.6%
メーカー	15.4%	65.2%
卸・小売	17.9%	4.3%
金融・保険業	13.8%	0.0%
建設・不動産業	9.0%	4.3%
公務員・教員	8.2%	5.8%
情報通信業	12.7%	8.7%
従業員規模別の就職割合	学部卒	大学院修了(修士・博士)
3,000名以上	31.8%	25.4%
1,000名以上3,000名未満	21.8%	28.4%
500名以上1,000名未満	15.9%	14.9%
500名未満	30.5%	31.3%



甲南大学
甲南大学大学院

ホームページ <https://www.konan-u.ac.jp>

◎岡本キャンパス

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL(078)431-4341(大代表)

◎西宮キャンパス

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町8-33
TEL(0798)63-5741

◎ポートアイランドキャンパス

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20
TEL(078)303-1457

甲南高等学校・中学校

〒659-0096 兵庫県芦屋市山手町31-3
TEL(0797)31-0551(代表)

ホームページ <https://www.konan.ed.jp>

甲南大学ネットワークキャンパス東京

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー10F
TEL(03)6266-9520

ホームページ <https://www.konan-u.ac.jp/tokyo/>



KONAN GAKUEN

ウェブサイトによる
「教育情報」の公開について

本学園では、「学校教育法施行規則第172条の2」に基づき、ウェブサイトにて「教育情報」を公開しています。詳しくは、甲南大学ホームページの「公開情報」をご覧ください。



発行 令和8(2026)年6月

この冊子に関するお問い合わせは、
以下までお願いいたします。

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

TEL(078)431-4341(大代表) FAX(078)435-2548

e-mail sohmu@adm.konan-u.ac.jp